

景気動向調査結果

(令和8年7月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 8 年 7 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 8 年 8 月にヒアリング又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、401 社（製造業 194 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 207 社）で、回答率は 57.3 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2925）

非製造業について

長野県産業労働部経営・創業支援課（TEL 026-232-0111 内線 2957）

令和 8 年 7 月の景気動向

1 総 論

長野県経済は、中東情勢の影響等に伴うエネルギー・原材料価格高騰等により依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きが続いています。

製造業の業況は、電機・電子、一般機械でA I 向け半導体関連の受注、生産が好調に推移しているほか、自動車関連で持ち直しが見られたことから、全体では2期連続でプラス水準となりました。

非製造業の業況は、D X化や業務効率化、省力化に向けたI T投資需要が引き続き堅調であることなどを背景に、情報サービス業でプラス水準となりました。一方で、中東情勢の影響により、物価高による経費増加や一部製品の仕入困難な状況となり、人手不足による供給制約もあることなどから、小売業、卸売業、宿泊業で業況が悪化し、非製造業全体では5期連続でマイナス水準となりました。

2 製 造 業

(1) 業界の業況

前年同期（令和7年7月）と比較したD I（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は 22.3 となり、前回調査時（令和8年4月）の 8.8 より 13.5 ポイント改善しました。

3か月前（令和8年4月）と比較したD Iは 11.9 となり、前回調査時の 6.9 より 5.0 ポイント改善し、2期連続でプラス水準となりました。

3か月後（令和8年10月）の予想では、D Iは 5.3 となり、18期ぶりのプラス水準となりました。

【主な業種の動き】

ア 電機・電子では、パソコンは受注・生産が増加しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

半導体関連は、A I 関連向けを中心に需要が増加しており、受注、生産が好調に推移しています。抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向け、情報通信向けは底堅く推移しているほか、産業機械向けで増加が見られます。

モーター等は、半導体関連の設備投資を中心に需要の増加がみられ、受注、生産に増加が見られます。

イ 一般機械では、工作機械は、自動車向けはアジア地域向けで受注、生産に持ち直しの動きが見られるほか、半導体関連は、A I 向けで受注、生産が増加しています。金型は、自動車関連向けで、受注、生産が底堅く推移しています。建設機械は海外向け需要が好調であることから、生産・販売が堅調に推移しています。

ウ 精密では、時計は、受注、生産は好調に推移しています。レンズは、半導体関連向けで需要が増加している一方で、プロジェクターは国内向け、海外向けともに需要が減少していることから、受注・生産が弱含んでいます。圧力計は、半導体関連の需要増により、受注・生産が増加しています。水道・L Pガスメーターは、取替工事の需要増により受注・生産が増加しています。

エ 自動車部品は、海外向けは、中国向けなどで受注・生産が低調に推移している一方で、国内向けは、需要の回復により、受注・生産に持ち直しがみられます。

オ 味そは、季節的要因により受注・生産が低調に推移しています。酒類は、季節的要因に加え、物価高騰に伴う消費者の節約志向により、受注・生産が低調に推移しています。飲料は、物価高騰による購買意欲の低下がみられる一方で、季節的要因により、受注・生産が増加しています。

(2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が48.4%と前回(42.9%)より増加し、「減少」とする企業が18.2%と前回(23.9%)より減少した結果、D Iは前回(19.0)より改善し、30.2となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が33.5%と前回(39.0%)より減少し、「減少」とする企業が17.0%と前回(18.0%)より減少した結果、D Iは前回(21.0)より悪化し、16.5となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業は23.6%、「減少」とする企業が△17.8%となった結果、D Iは5.8となりました。

(3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が46.4%と前回(40.0%)より増加し、「減少」とする企業が19.3%と前回(25.9%)より減少した結果、D Iは前回(14.1)より改善し、27.1となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が34.2%と前回(32.8%)より増加し、「減少」とする企業が18.1%と前回(18.1%)と同様だった結果、D Iは前回(14.7)より改善し、16.1となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業29.3%、「減少」とする企業が15.2%となった結果、D Iは14.1となりました。

(4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が56.8%と前回(51.7%)より増加し、「安い」とする企業が2.6%と前回(2.0%)より増加した結果、D Iは前回(49.7)より改善し、54.2となりました。

3ヵ月前との比較では、「高い」とする企業が26.3%と前回(27.8%)より減少し、「安い」とする企業が2.1%と前回(1.0%)より増加した結果、D Iは前回(26.8)より悪化し、24.2となりました。

3ヵ月後の予想については、「高い」とする企業が26.0%、「安い」とする企業が2.6%となった結果、D Iは23.4となりました。

(5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が12.4%と前回(11.6%)より増加し、「苦しい」とする企業が15.6%と前回(15.1%)より僅かに増加した結果、D Iは前回(△3.5)より改善し、△3.2となりました。

3ヵ月前との比較では、「らく」とする企業が9.0%と前回(7.6%)より増加し、「苦しい」とする企業が11.2%と前回(11.6%)より減少した結果、D Iは前回(△4.0)より改善し、△2.2となりました。

3ヵ月後の予想については、「らく」とする企業が8.1%、「苦しい」とする企業が15.1%となった結果、D Iは△7.0となりました。

(6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が27.6%と前回(26.8%)より増加し、「低下」とする企業が37.0%と前回(36.6%)より僅かに増加した結果、D Iは前回(△9.8)より改善し、△9.4となりました。

3ヵ月前との比較では、「上昇」とする企業が19.1%と前回(19.0%)より増加し、「低下」とする企業が25.8%と前回(29.8%)より減少した結果、D Iは前回(△10.8)より改善し、△6.7となりました。

3ヵ月後の予想については、「上昇」とする企業が12.0%、「低下」とする企業が19.3%となった結果、D Iは△7.3となりました。

(7)製造業の業種別動向

電 機 ・ 電 子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは受注・生産が増加しています。プリンターは受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) 半導体関連は、A I 関連向けを中心に需要が増加しており、受注、生産が好調に推移しています。

(抵抗器・コンデンサ等) 抵抗器・コンデンサ等は、受注、生産が自動車関連向け、情報通信向けは底堅く推移しているほか、産業機械向けで増加が見られます。

(モーター等) モーター等は、半導体関連の設備投資を中心に需要の増加がみられ、受注、生産に増加が見られます。

(そ の 他) 車載部品（カーナビ・カーオーディオ）は、一部自動車メーカーの減産により、受注、生産が低調に推移しています。

一 般 機 械

(工 作 機 械) 工作機械は、自動車向けはアジア地域向けで受注、生産に持ち直しの動きが見られるほか、半導体関連は、A I 向けで受注、生産が増加しています。

(金 型) 金型は自動車関連向けで、受注、生産が底堅く推移しています。

(建 設 機 械) 建設機械は海外向け需要が好調であることから、生産・販売が堅調に推移しています。

(農業用機械等) 農業用機械は、稲作関係で受注・生産が好調に推移しています。

精 密

(時 計)

時計は、受注、生産は好調に推移しています。

(レ ン ズ)

レンズは、半導体関連向けで需要が増加している一方で、プロジェクターは国内向け、海外向けともに需要が減少していることから、受注・生産が弱含んでいます。

(計 器)

圧力計は、半導体関連の需要増により、受注・生産が増加しています。水道・LPガスメーターは、取替工事の需要増により受注・生産が増加しています。

自 動 車 部 品

自動車部品は、海外向けは、中国向けなどで受注・生産が低調に推移している一方で、国内向けは、需要の回復により、受注・生産に持ち直しがみられます。

食 料 品

(味 そ)

味そは、季節的要因により受注・生産が低調に推移しています。

(酒 類)

酒類は、季節的要因に加え、物価高騰に伴う消費者の節約志向により、受注・生産が低調に推移しています。

(飲 料)

飲料は、物価高騰による購買意欲の低下がみられる一方で、季節的要因により、受注・生産が増加しています。

繊 維 ・ 衣 服

繊維・衣服は、季節的要因により、受注、販売が増加しています。

紙 ・ パ ル プ

ダンボールは、季節的要因により、農産物向けで受注、生産が増加しています。

印 刷

印刷は、印刷・製本の需要の低迷などにより、引き続き低調に推移しています。

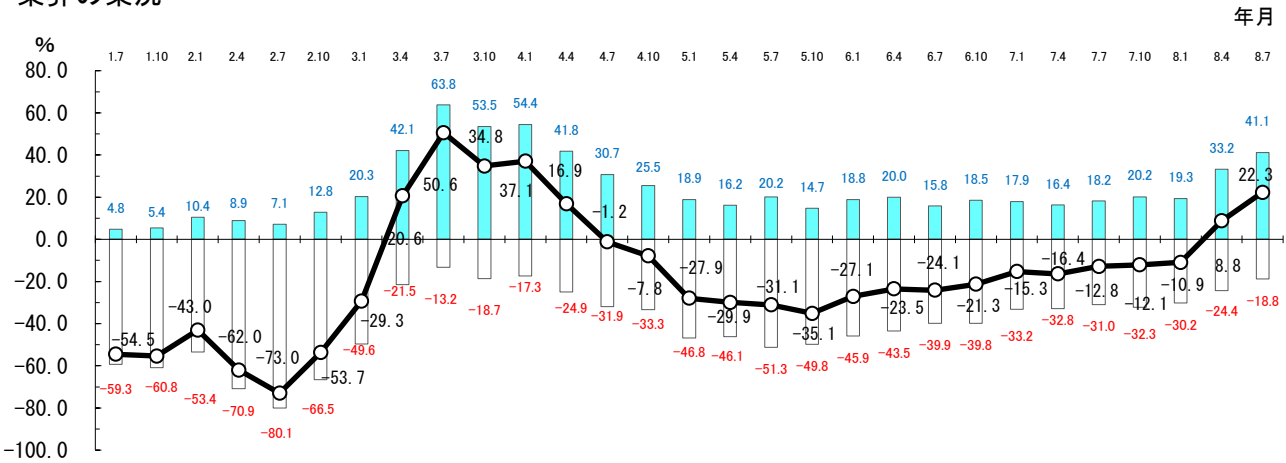
景気動向調査集計結果

(注)棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。
折れ線グラフ（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

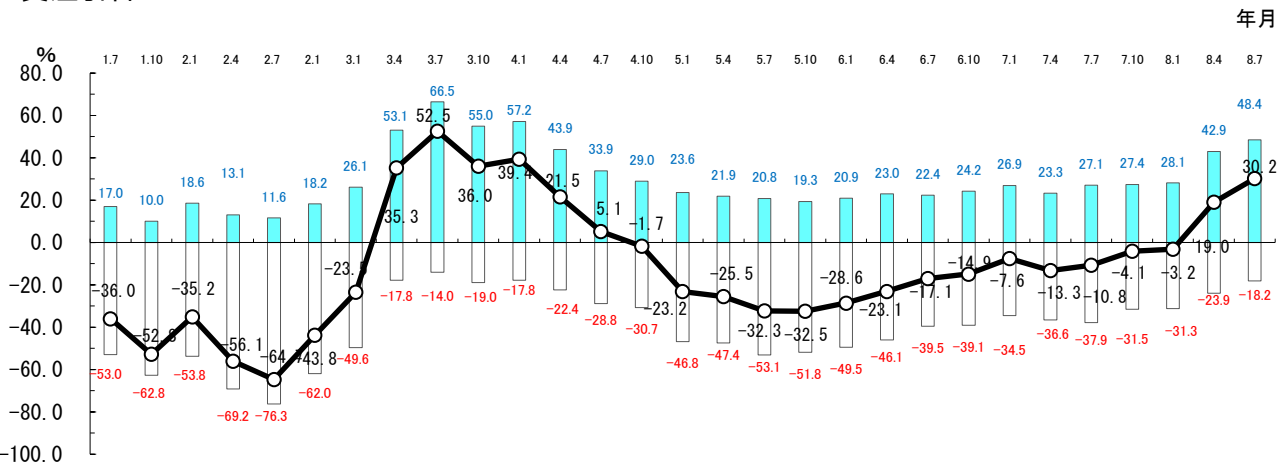
1 製造業

（１）前年同期に比べて

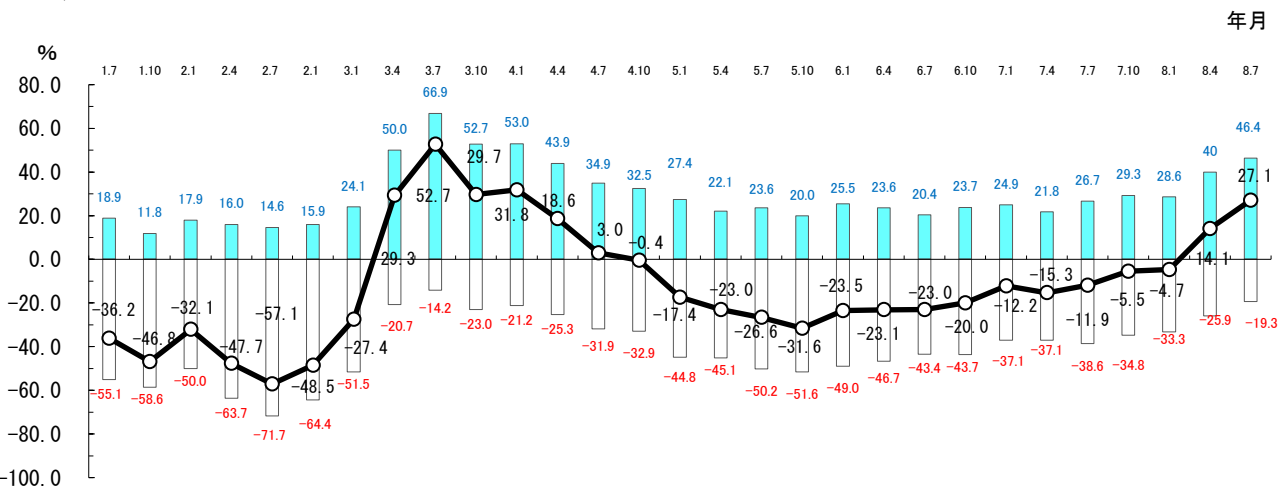
業界の業況



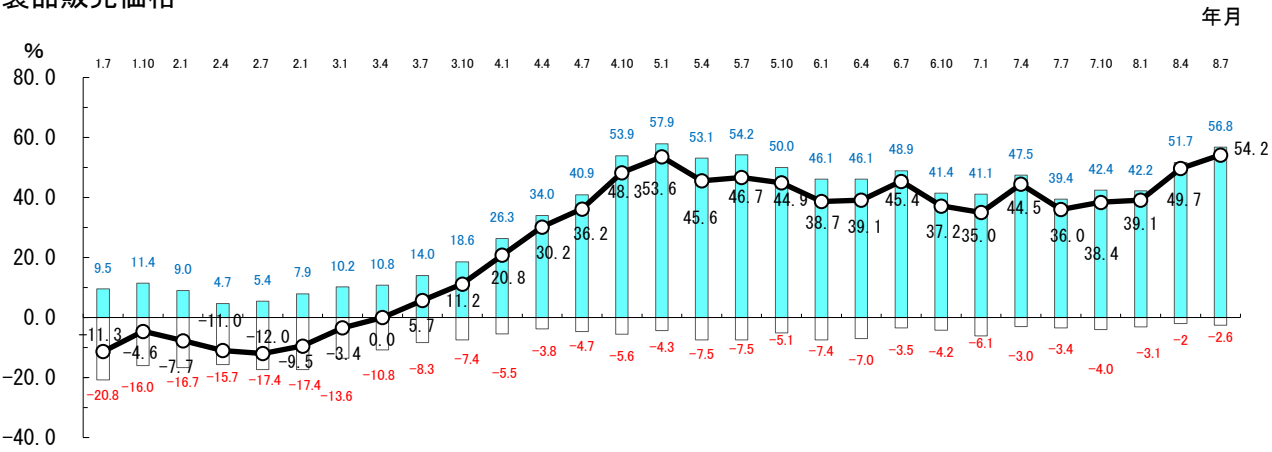
受注引合



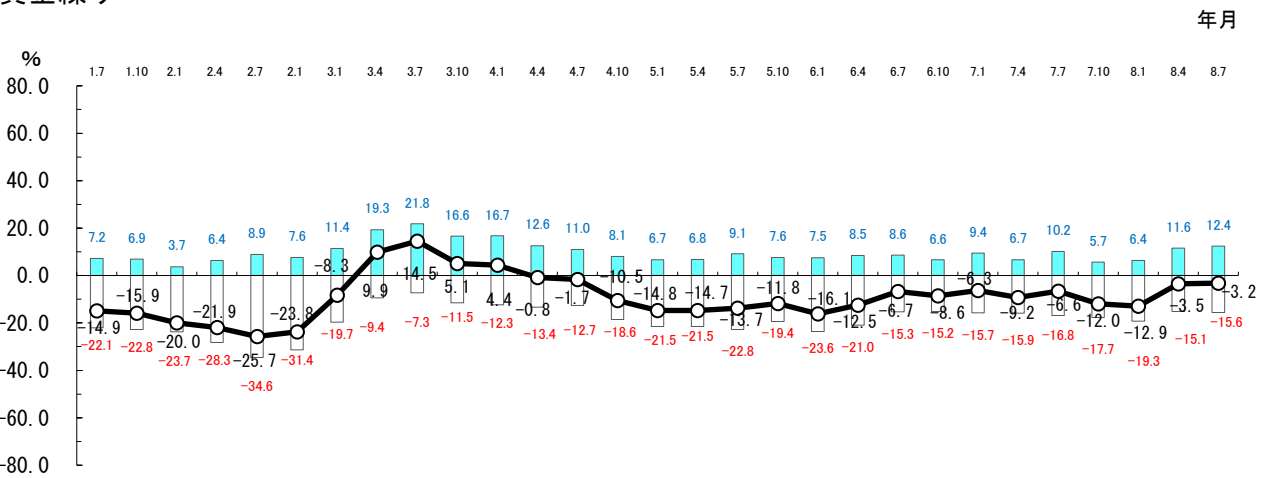
生産量



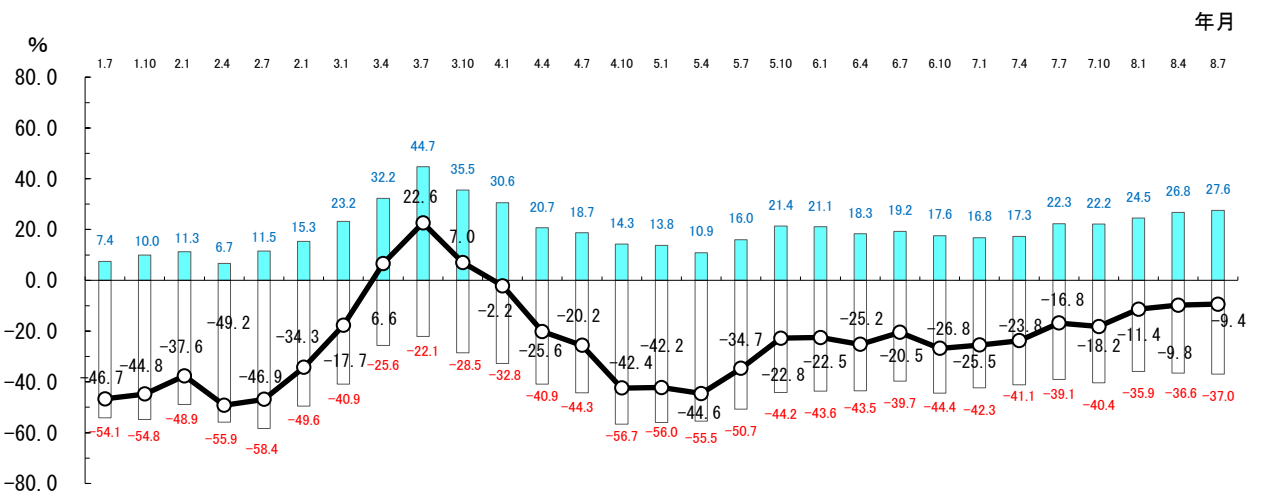
製品販売価格



資金繰り

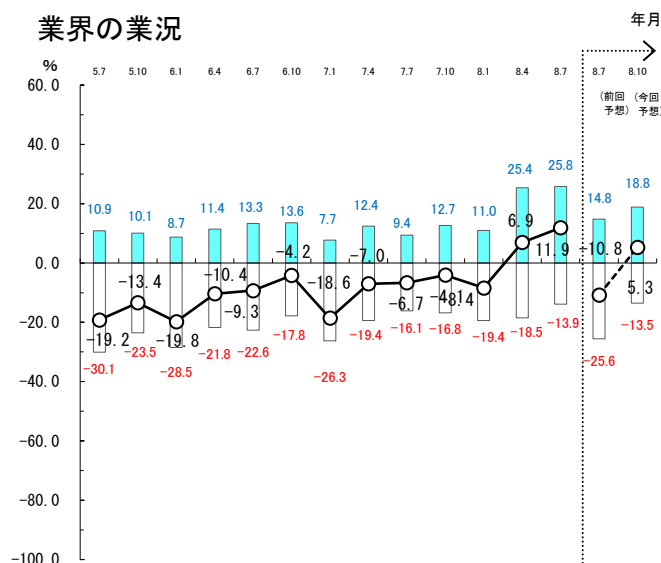


収益率

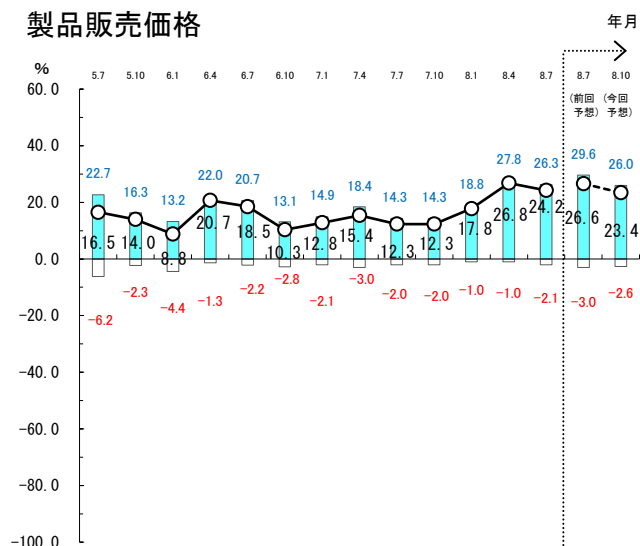


（２）３か月前に比べて及び３か月後の予想

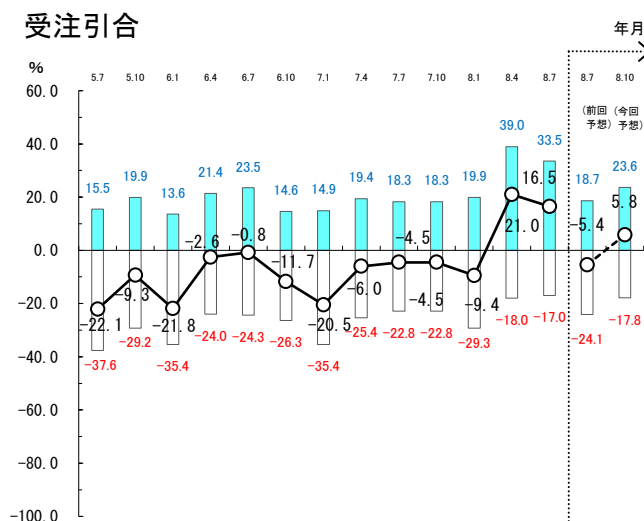
業界の業況



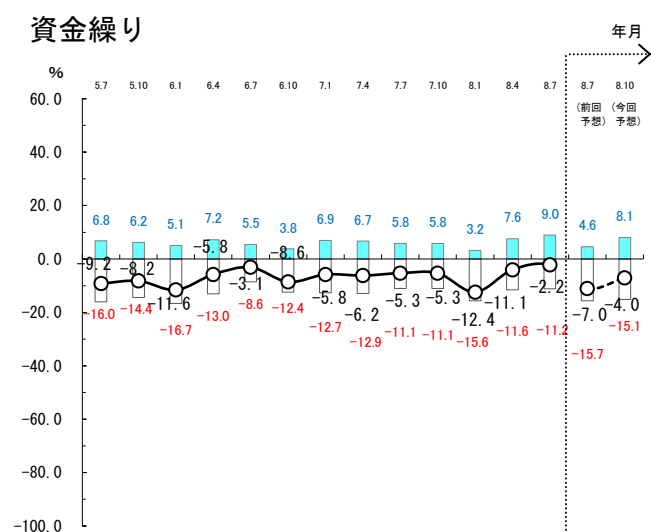
製品販売価格



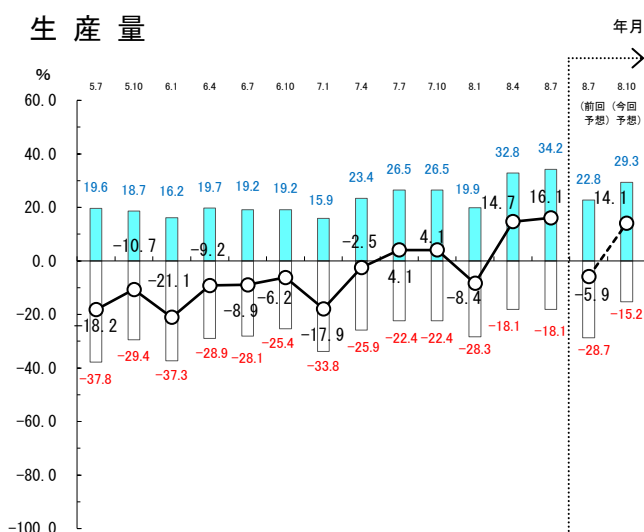
受注引合



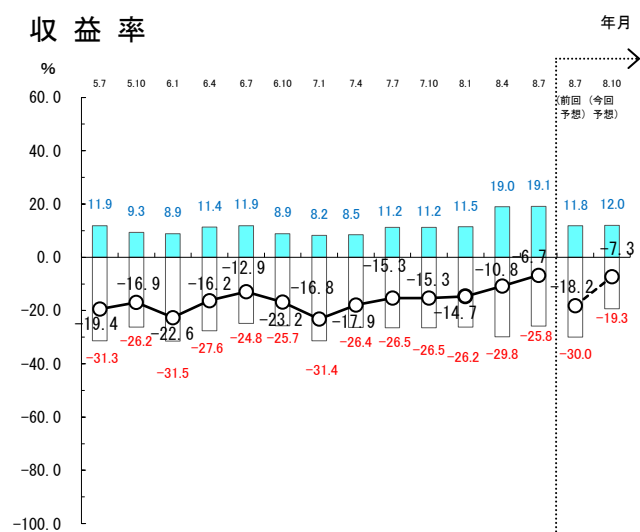
資金繰り



生産量



収益率



3 非製造業

【総論】

非製造業の業況は、DX化や業務効率化、省力化に向けたIT投資需要が引き続き堅調であることなどを背景に、情報サービス業でプラス水準となりました。一方で、中東情勢の影響により、物価高による経費増加や一部製品の仕入困難な状況となり、人手不足による供給制約もあることなどから、小売業、卸売業、宿泊業で業況が悪化し、非製造業全体では5期連続でマイナス水準となりました。

【業界の業況】

(1) 業界の業況

前年同期（令和7年7月）と比較したDIは△17.4となり、前回調査時（令和8年4月）の△19.7より2.3ポイント改善しましたが、5期連続のマイナス水準となりました。

3か月前（令和8年4月）と比較したDIは△7.1となり、前回調査時の△8.1より1.0ポイント改善しましたが、5期連続のマイナス水準となりました。

3か月後（令和8年10月）の予想DIは△18.4と、現状からの悪化が見込まれています。

(2) 各業種の動き

ア 建設業

資材価格や外注費の上昇に加え、人手不足による受注制約などの要因があることから、売上高DIには改善の動きが見られるものの、客数DIは△25.0と前回（△22.2）から僅かに悪化しました。これにより、業況DIは△25.0と引き続きマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは△20.9と、中東情勢の不透明感が幾分か和らいだことなどから、前回見通しよりも改善する見込みとなっています。

イ 情報サービス業

企業や自治体のDX化や業務効率化の需要は底堅く、IT投資も安定的に推移していることから、客数DIは33.3と前回（0.0）から改善しました。販売価格DIも66.7と前年比で高水準であることから、業況DIは40.0と前回（12.5）より改善し、8期連続でプラス水準を維持しました。

3か月後の業況DIは22.2と、現状からの改善が見込まれています。

ウ 小売業

商品価格の上昇により客単価は上昇したものの、買い上げ点数や客数の伸び悩みが影響し、総合スーパー、専門スーパー、食料品専門店、住関連専門店、その他小売店における売上高DIはいずれもマイナス水準となりました。加えて、人件費など各種経費の上昇により、収益率DIは多くの業態でマイナス水準となりました。これにより業況DIは△23.9と前回（△20.2）から悪化し、12期連続でマイナス水準となりました。

3か月後の業況DIは△25.6と、物価高の影響により、現状からの悪化が見込まれています。

エ 卸売業

中東情勢等の影響による仕入先の納期遅れなどもあることから、客数DIは△13.0と前回（△4.5）

から悪化しました。よって、販売価格D Iはプラス水準であるものの売上高D Iはマイナス水準で推移し、業況D Iは $\Delta 20.8$ と前回($\Delta 17.4$)から悪化しました。

価格転嫁が出来ていることなどもあり、3か月後の業況D Iは $\Delta 13.1$ と、前回見通しからは改善が見込まれています。

オ 飲食業

観光需要の底堅さはあるものの人手不足を背景に需要に十分に対応できず、客数D Iは $\Delta 11.1$ と前回($\Delta 25.0$)から改善したものの、引き続きマイナス水準となりました。販売価格D Iは 33.3 とプラス水準であり、売上高D I、業況D Iはともに改善しました。しかし、業況D Iは $\Delta 5.0$ と4期連続でマイナス水準となっています。

中東情勢の不透明感が幾分か和らいだことなどから、3か月後の業況D Iは、 $\Delta 18.1$ と、前回の見通しからは改善が見込まれています。

カ 宿泊業

観光・インバウンド需要の底堅さから、客数D Iは 0.0 と前回($\Delta 30.8$)から改善しました。販売価格もプラス水準であることから売上高D Iも改善しましたが、食材費や人件費などのコスト増加要因により、収益率D Iは悪化しました。その結果、業況D Iは $\Delta 5.9$ と前回(7.7)から悪化し、2期ぶりにマイナス水準となりました。

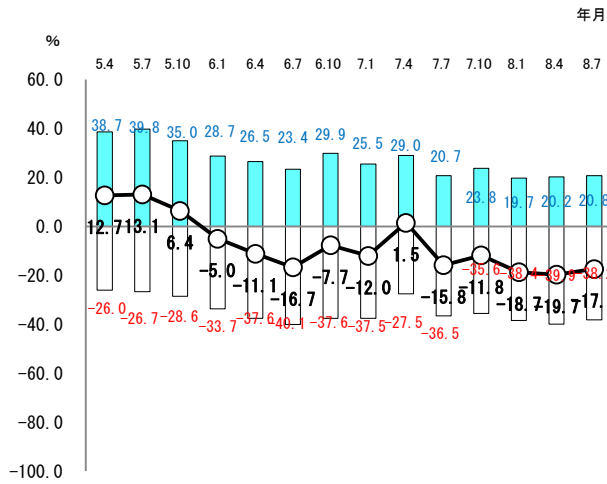
物価高や人手不足、旅行マインドの低下などから、3か月後の業況D Iは $\Delta 11.8$ と、前回の見通しからの悪化が見込まれています。

2 非製造業

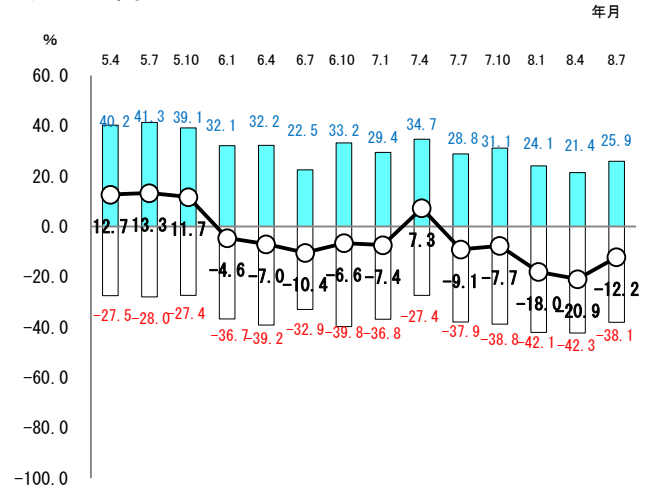
非製造業全体

(1) 前年同期に比べて

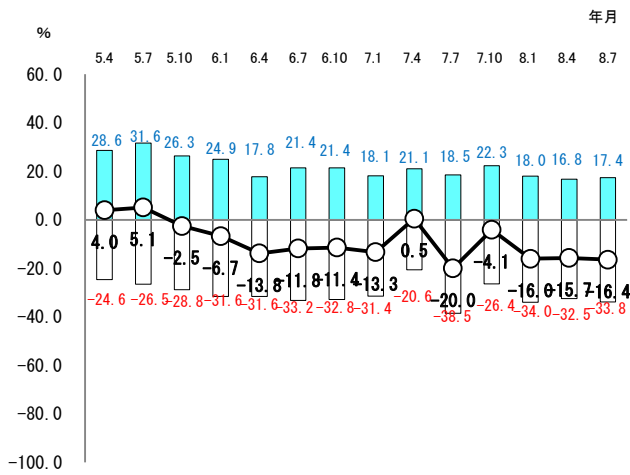
業況



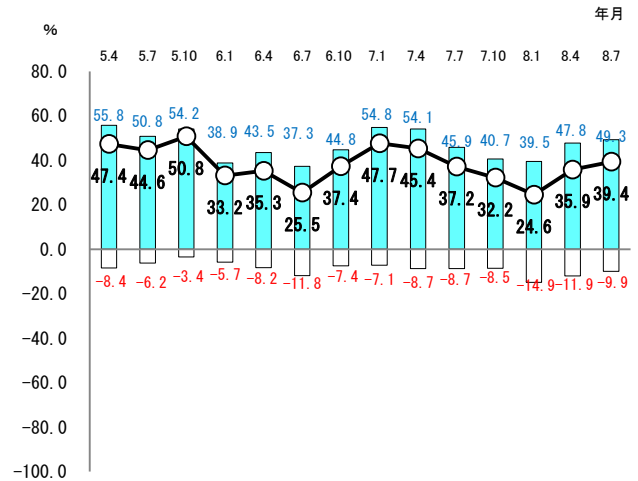
売上高



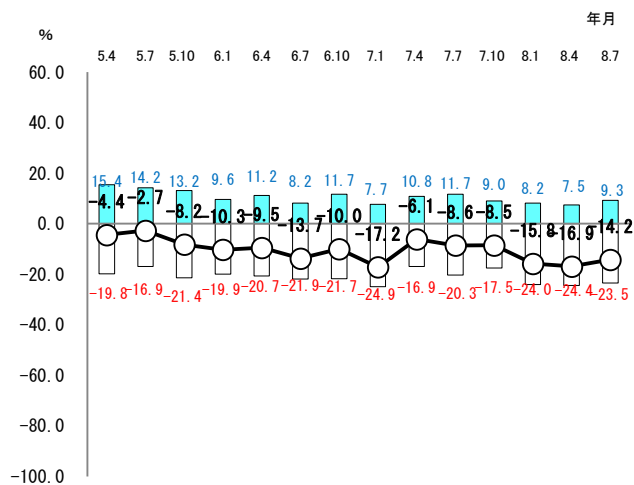
客数 (受注件数・取引先数)



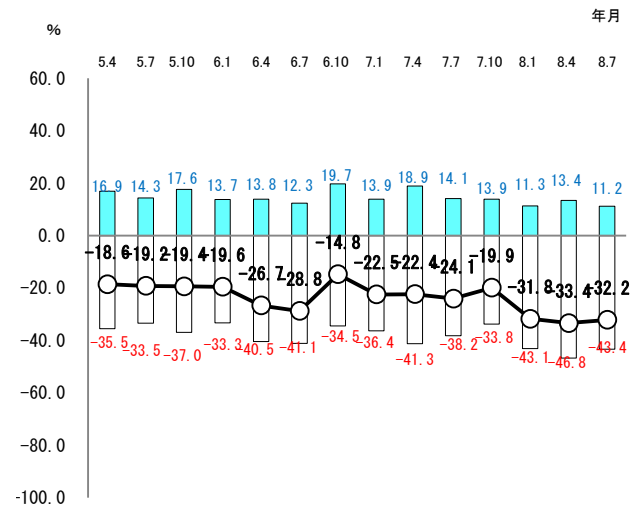
販売価格



資金繰り

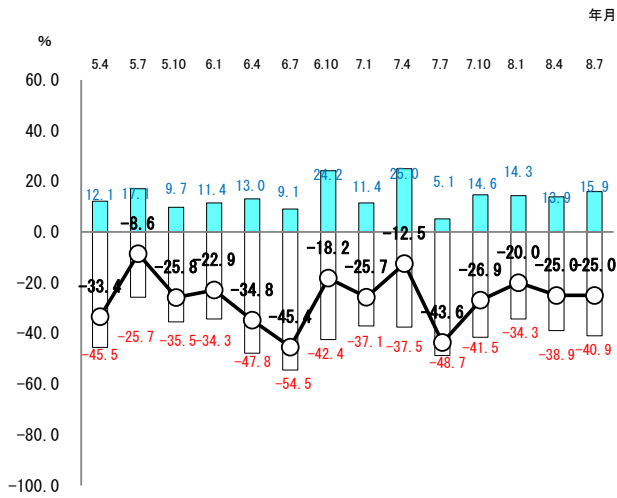


収益率

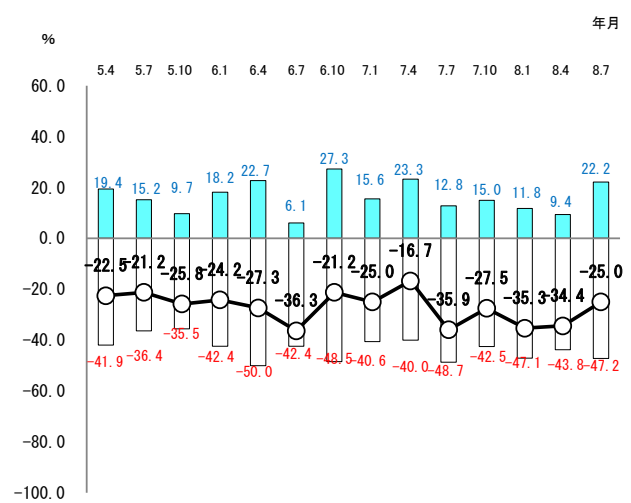


ア 建設業

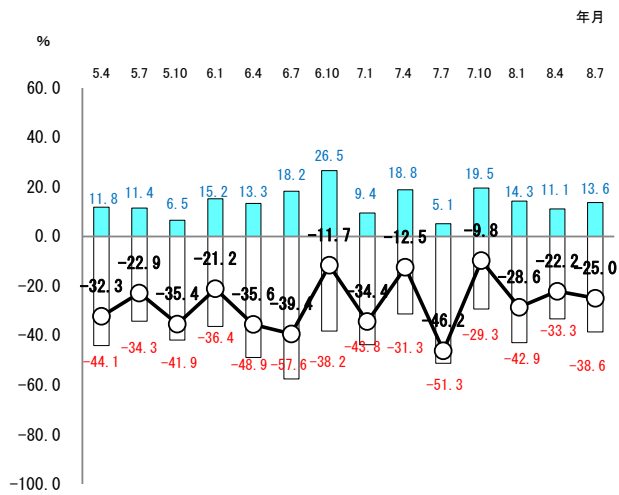
業況



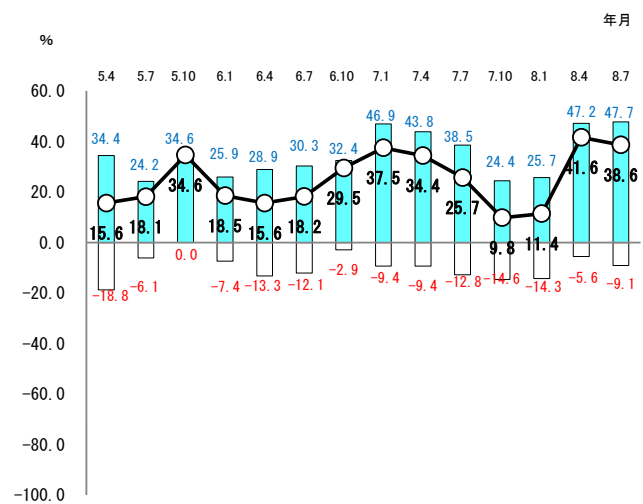
売上高



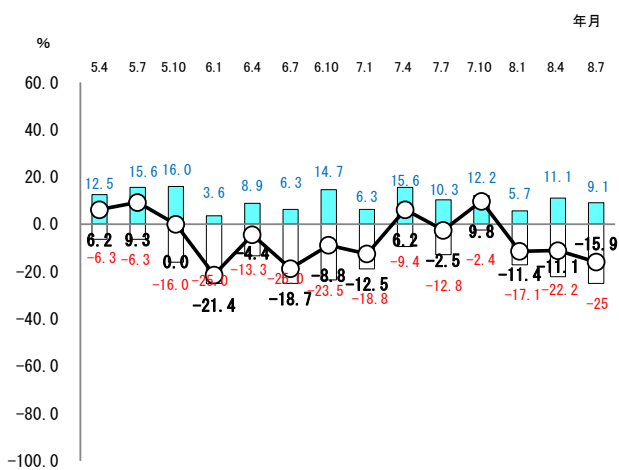
客数（受注件数）



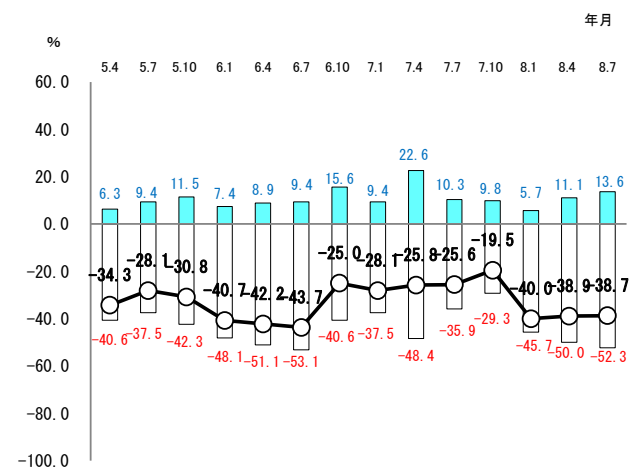
販売価格



資金繰り

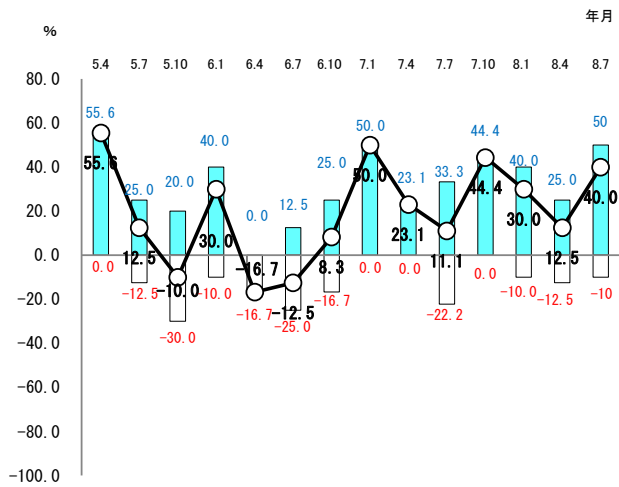


収益率

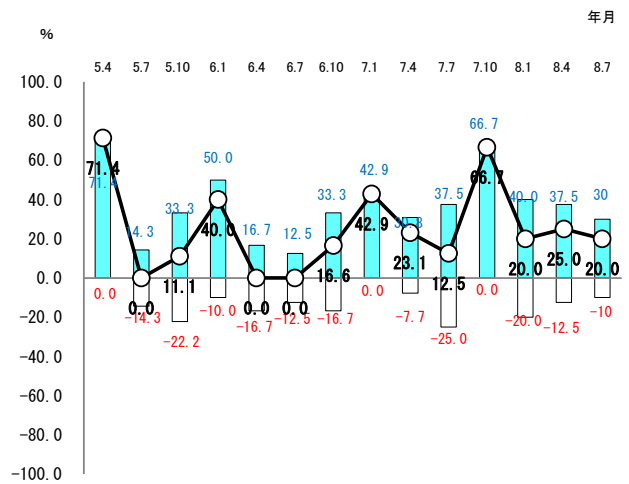


イ 情報サービス業

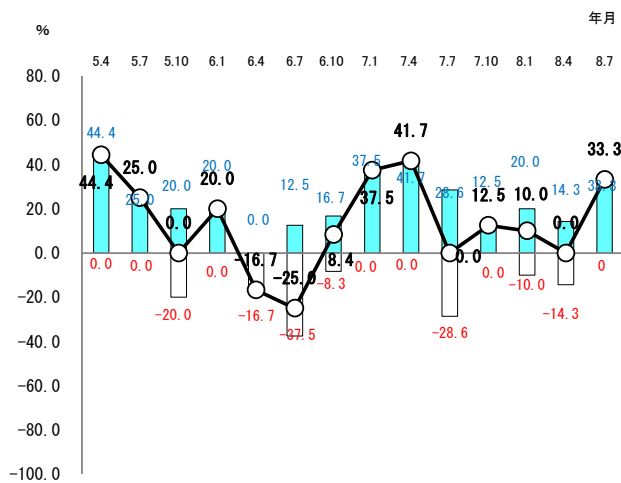
業況



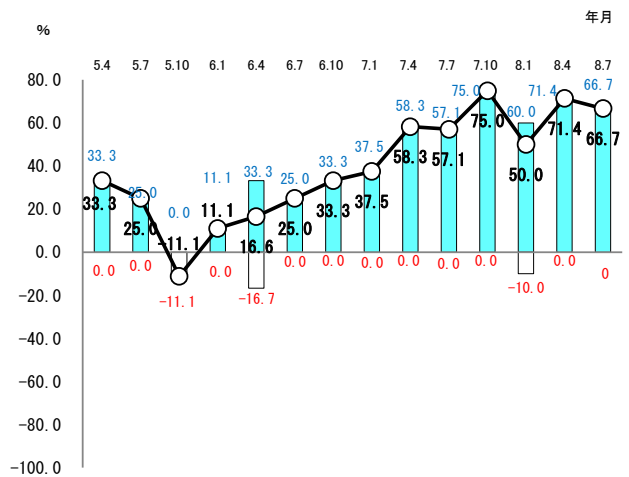
売上高



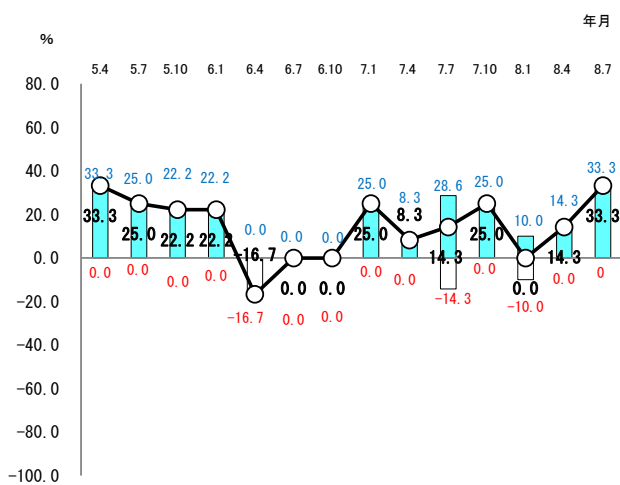
客数 (受注件数)



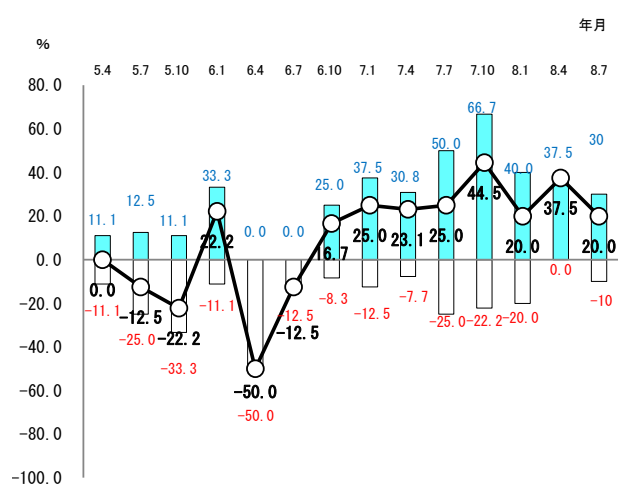
販売価格



資金繰り

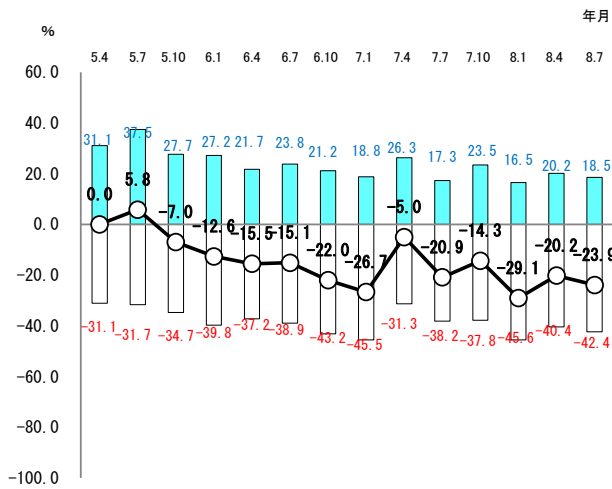


収益率

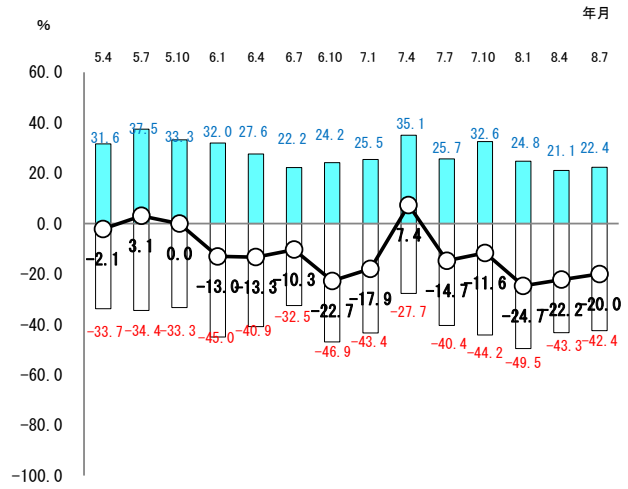


ウ 小売業

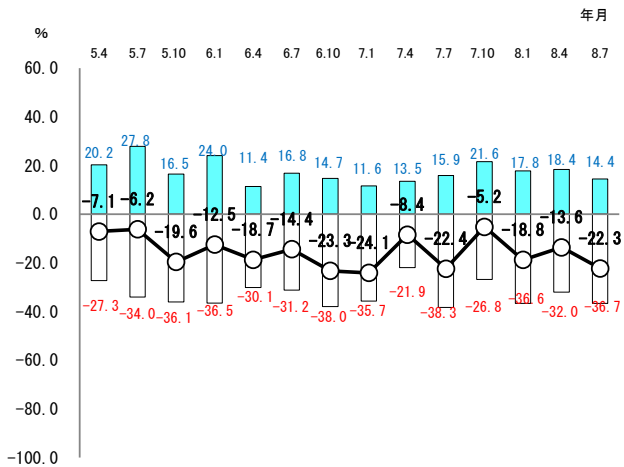
業況



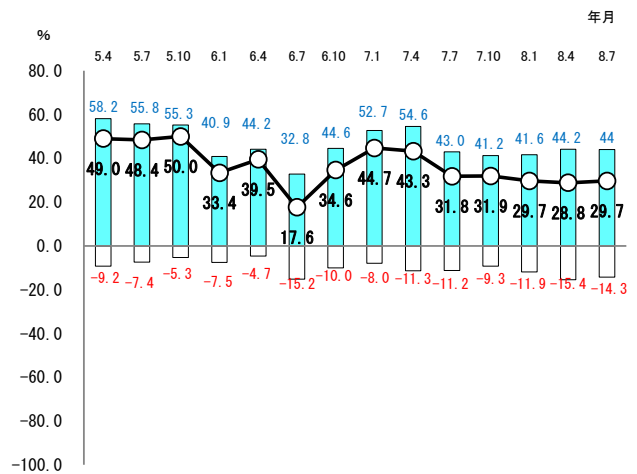
売上高



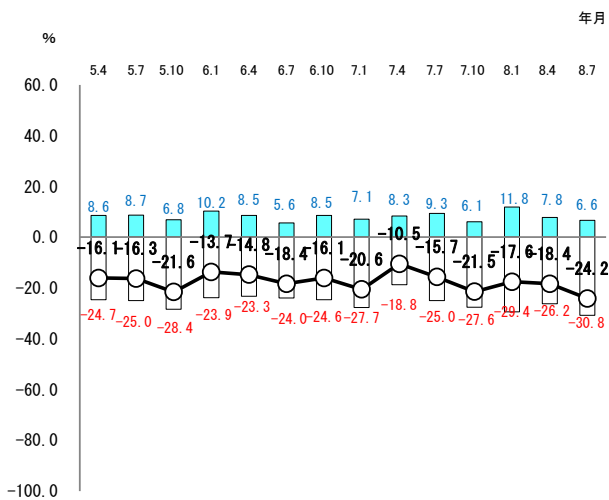
客数



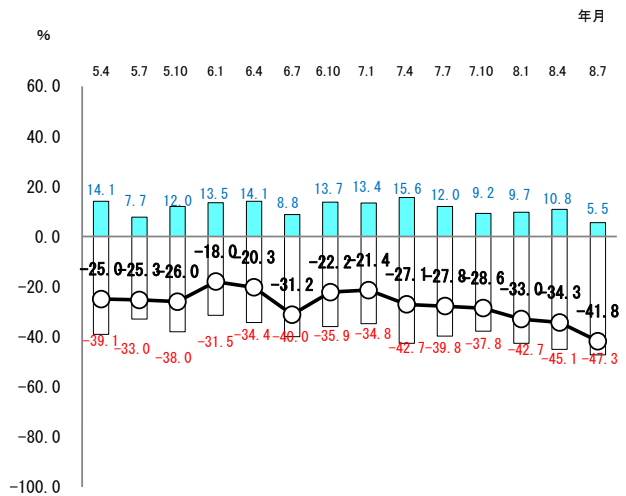
販売価格



資金繰り

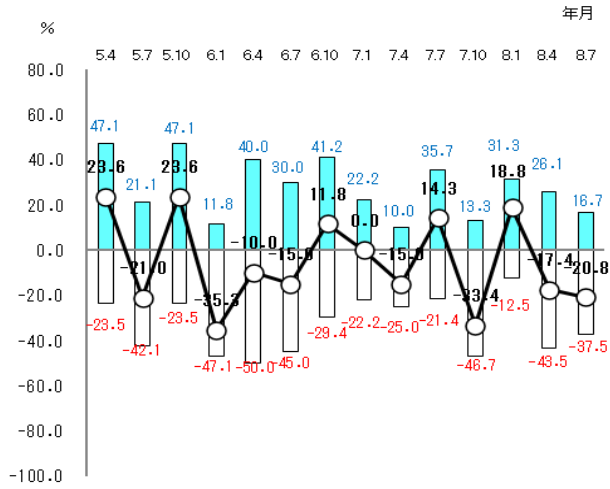


収益率

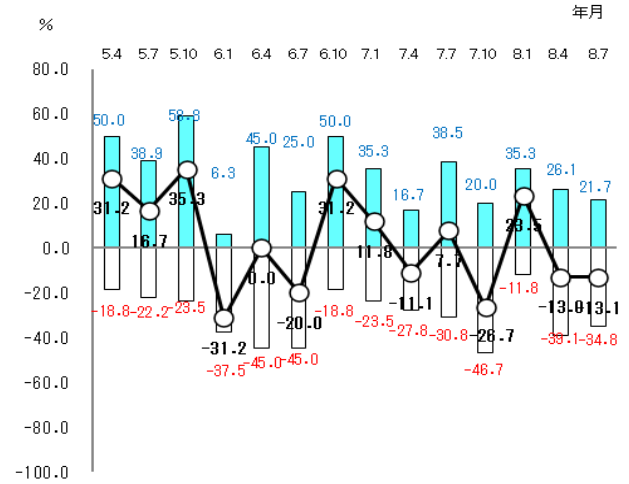


工 卸売業

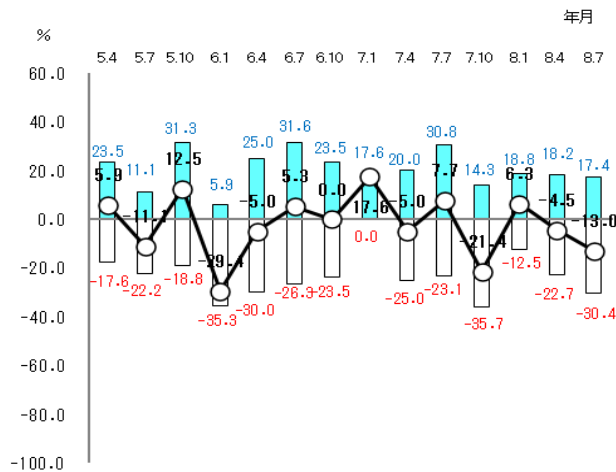
業況



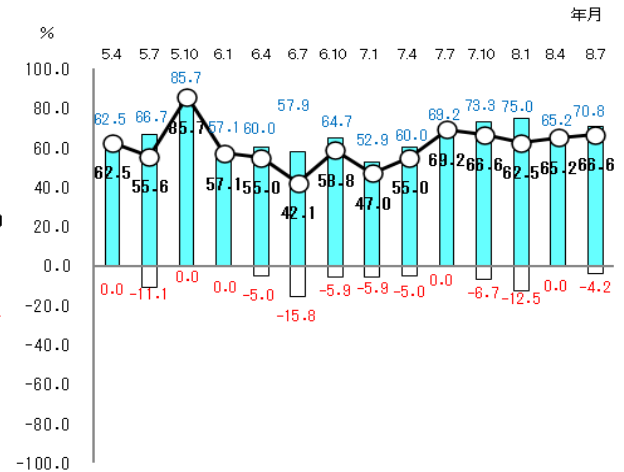
売上高



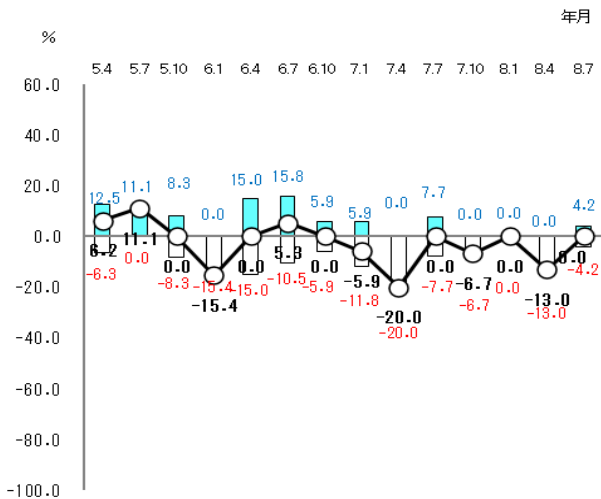
客数 (取引先数)



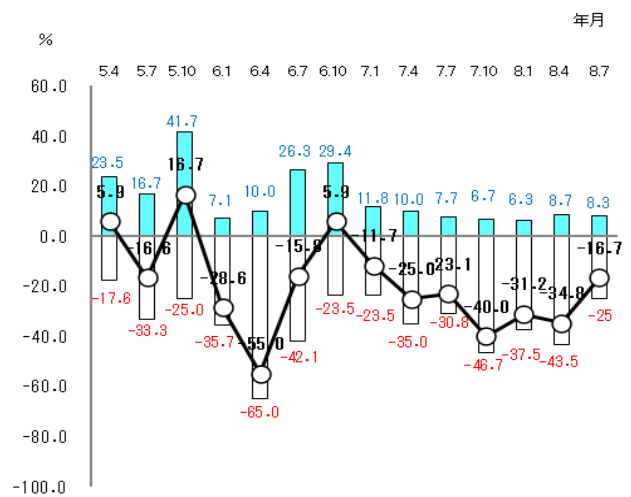
販売価格



資金繰り

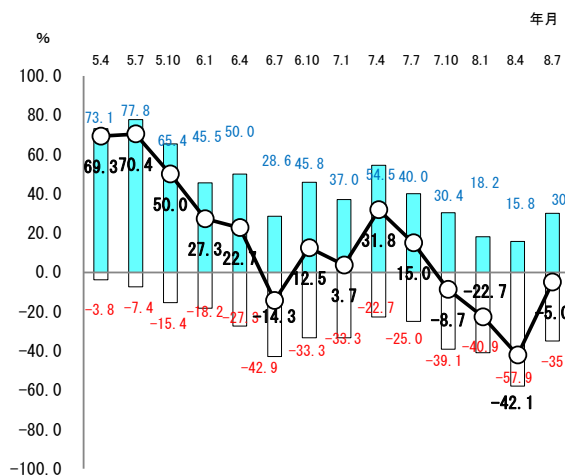


収益率

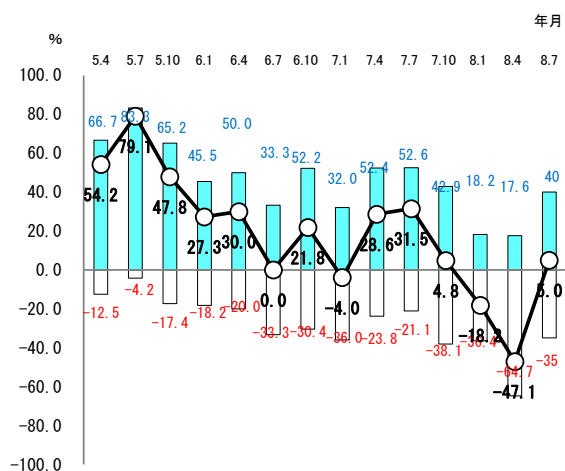


才 飲食業

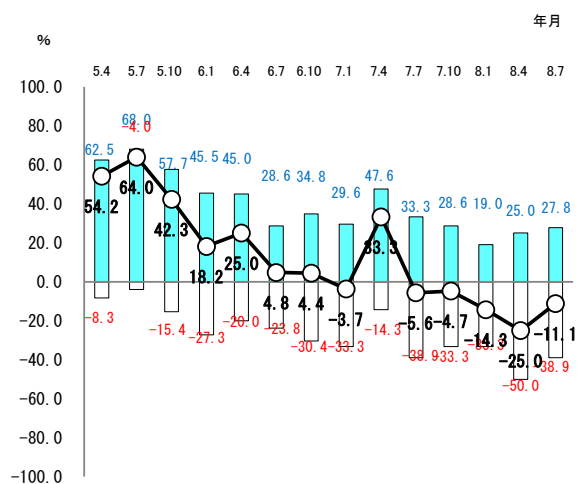
業況



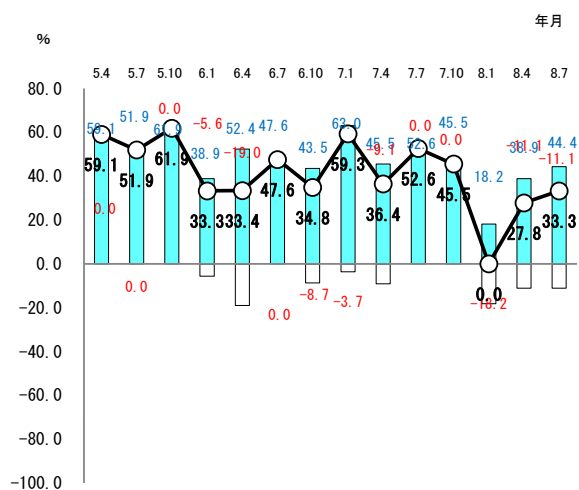
売上高



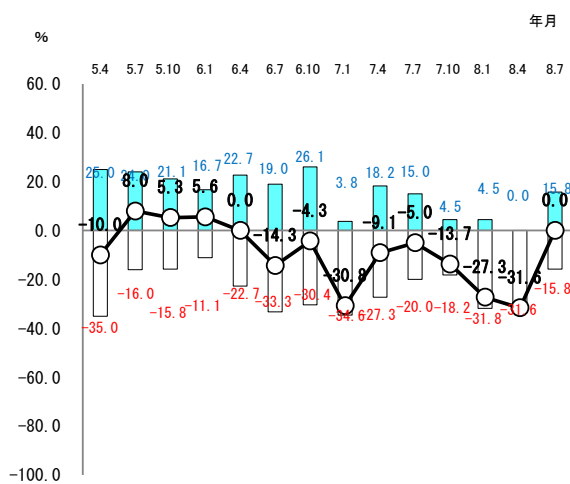
客数



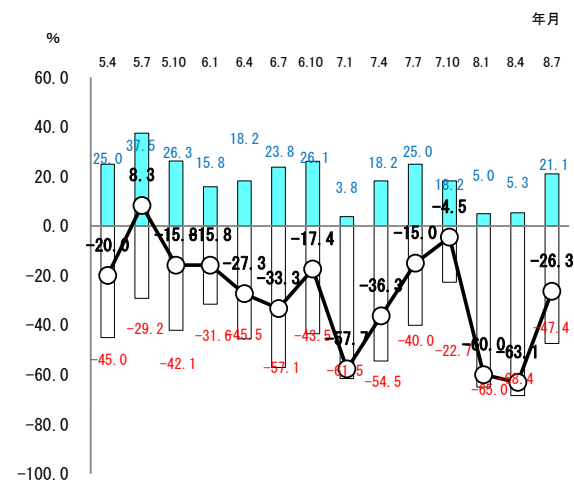
販売価格



資金繰り

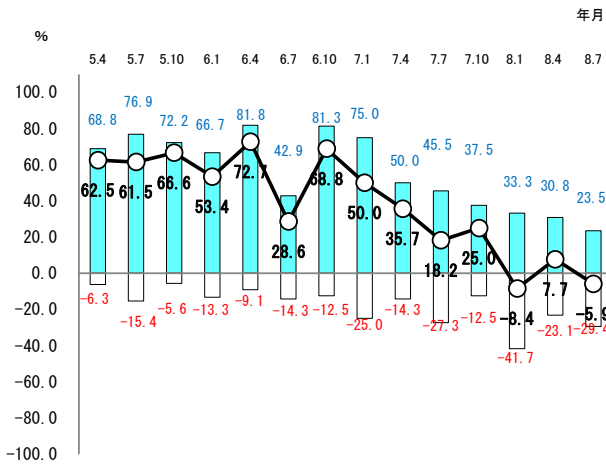


収益率

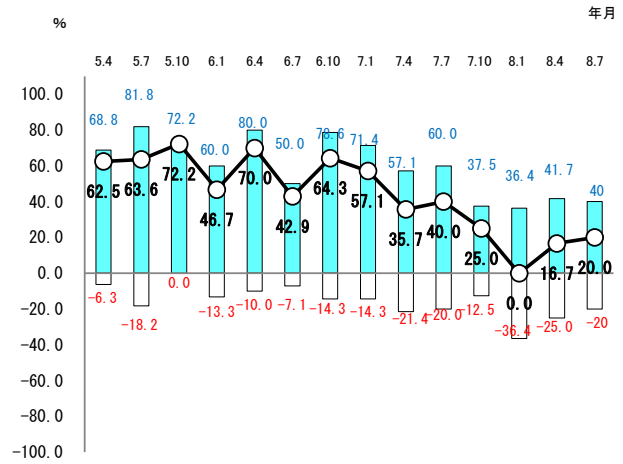


力 宿泊業

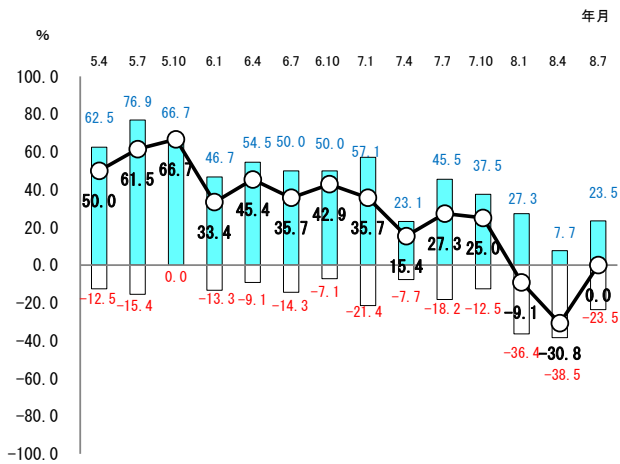
業況



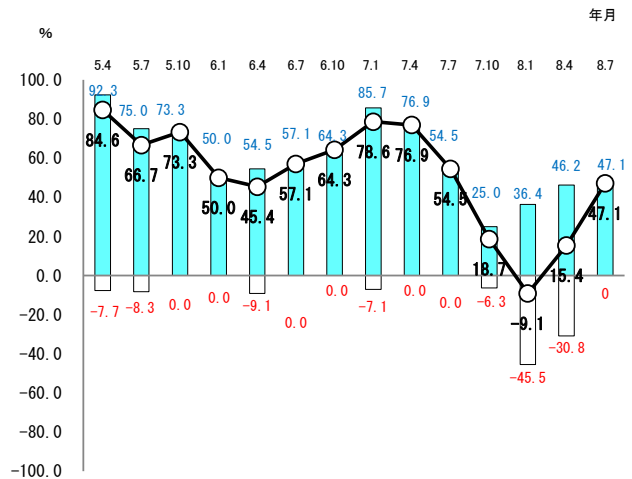
売上高



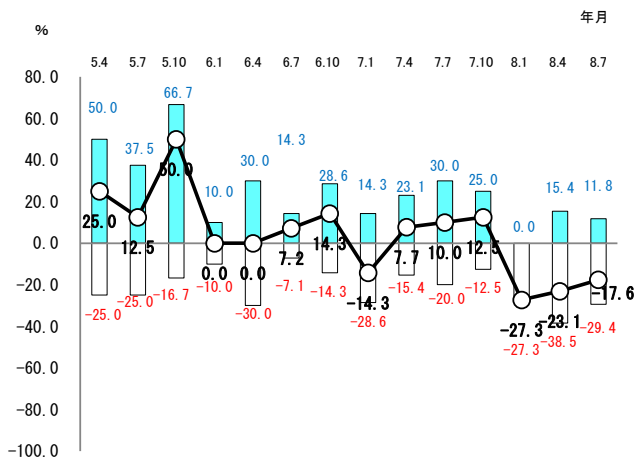
客数



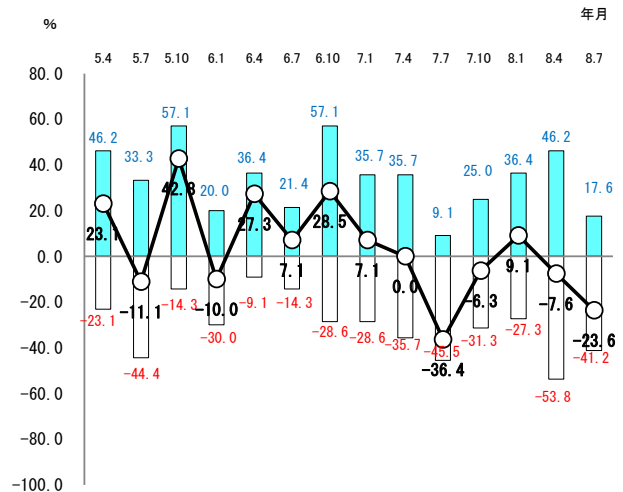
販売価格



資金繰り

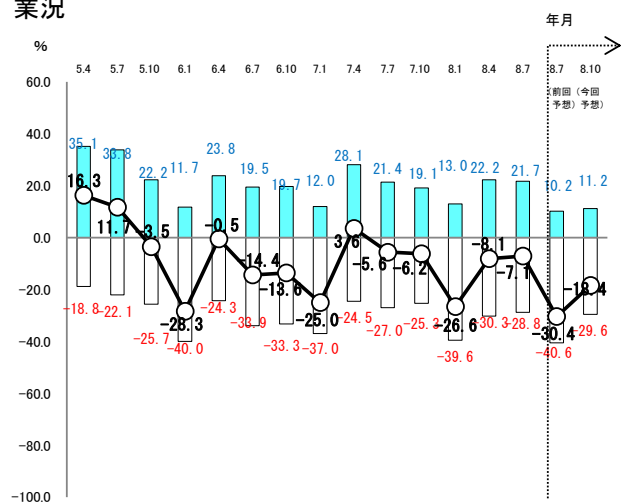


収益率

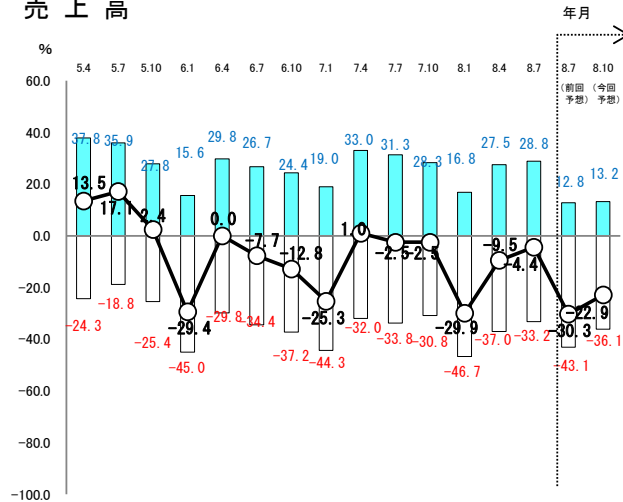


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想 非製造業全体

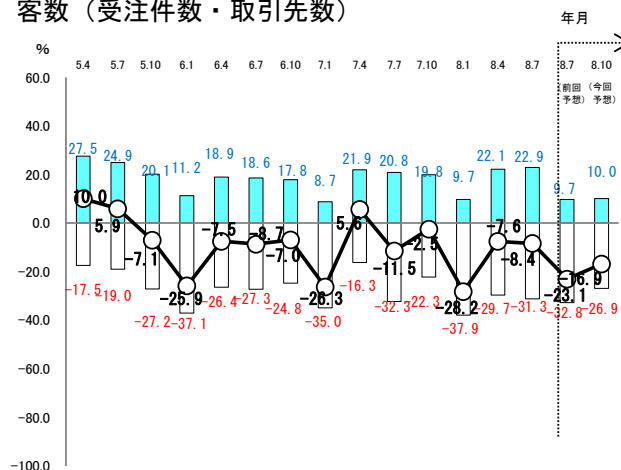
業況



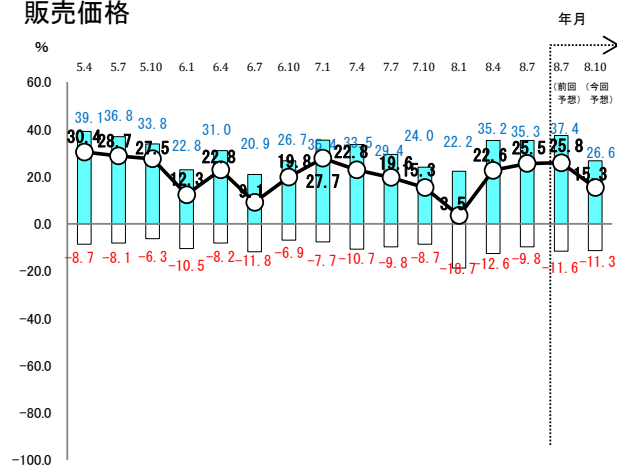
売上高



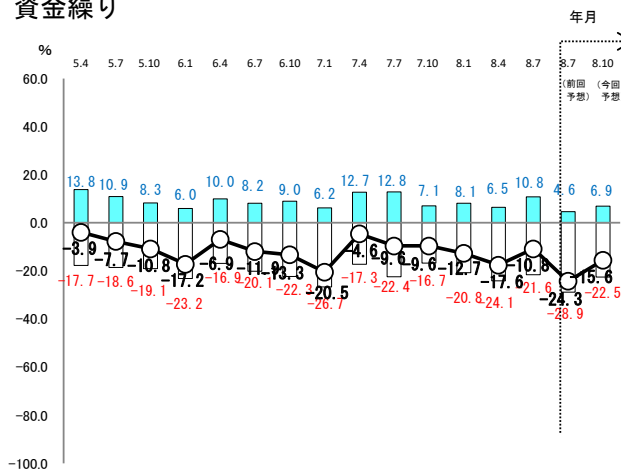
客数 (受注件数・取引先数)



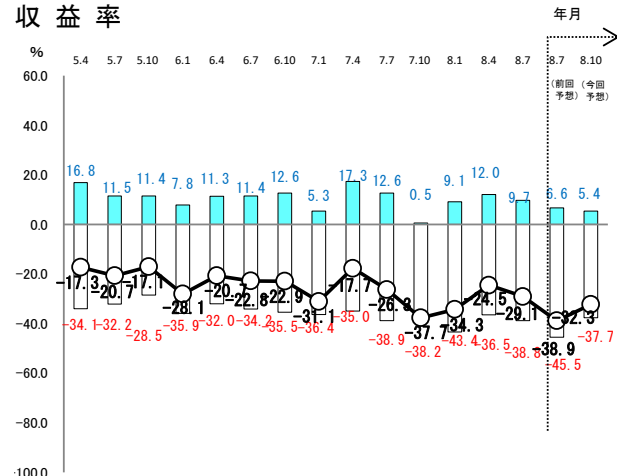
販売価格



資金繰り

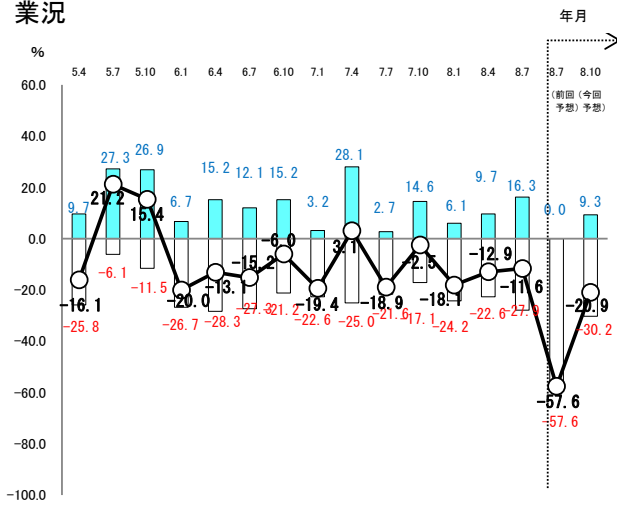


収益率

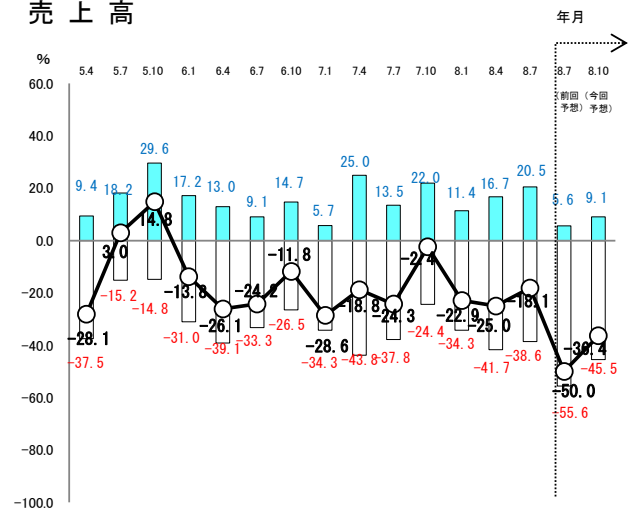


ア 建設業

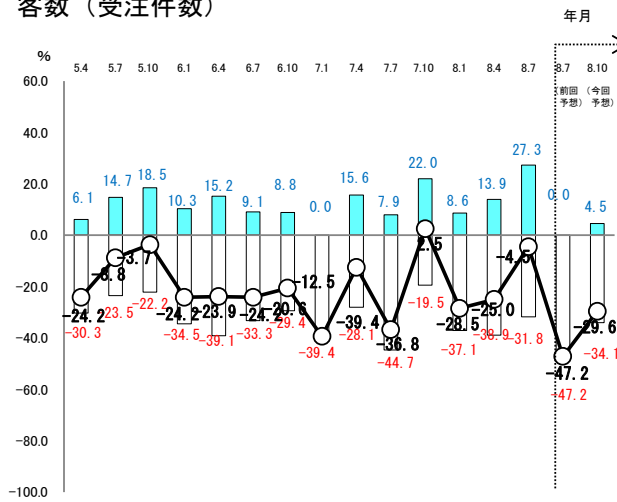
業況



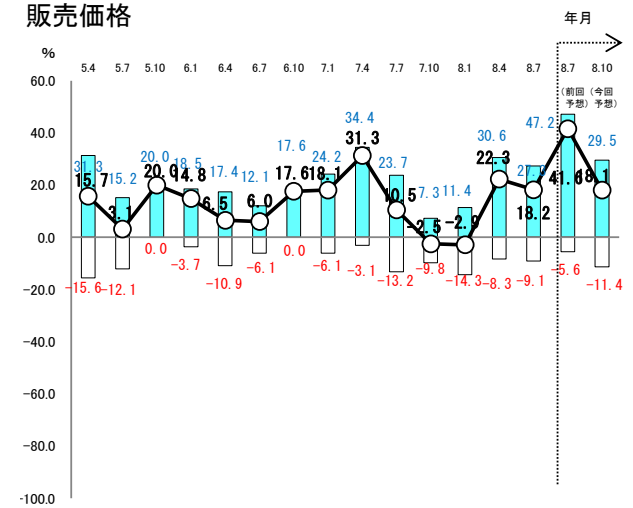
売上高



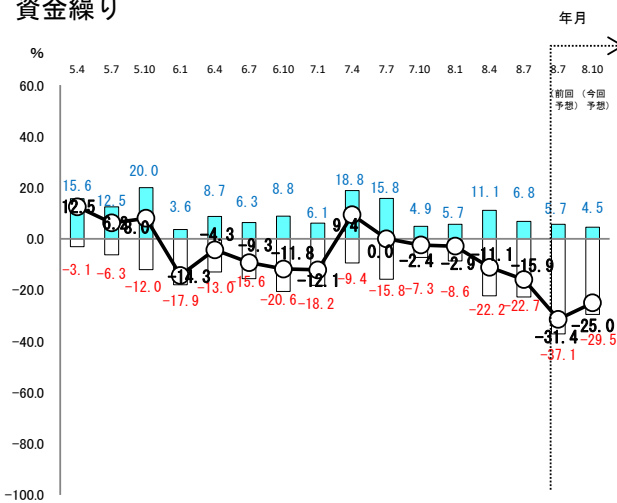
客数 (受注件数)



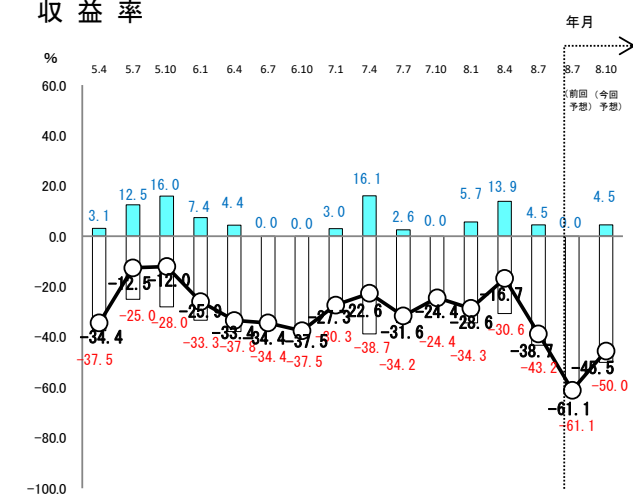
販売価格



資金繰り

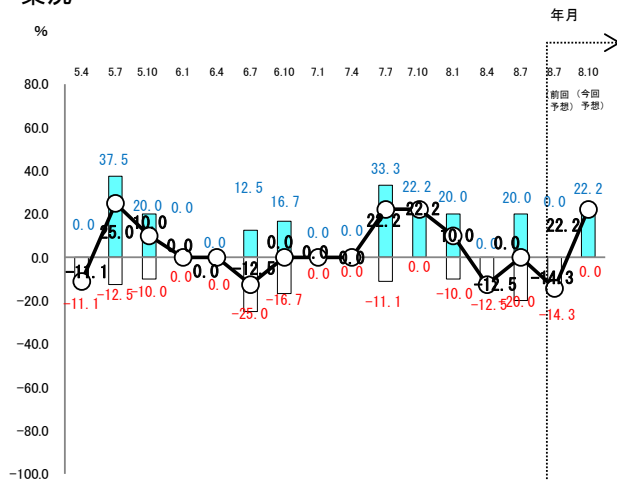


収益率

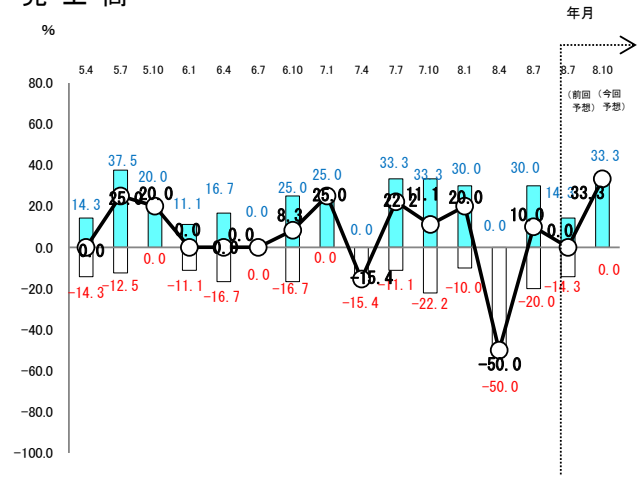


イ 情報サービス業

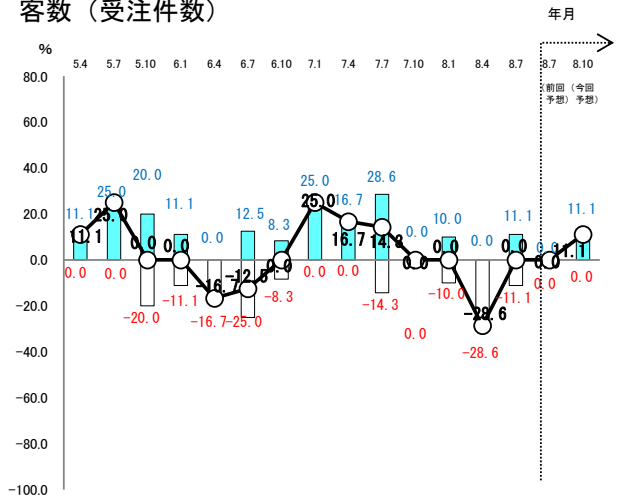
業況



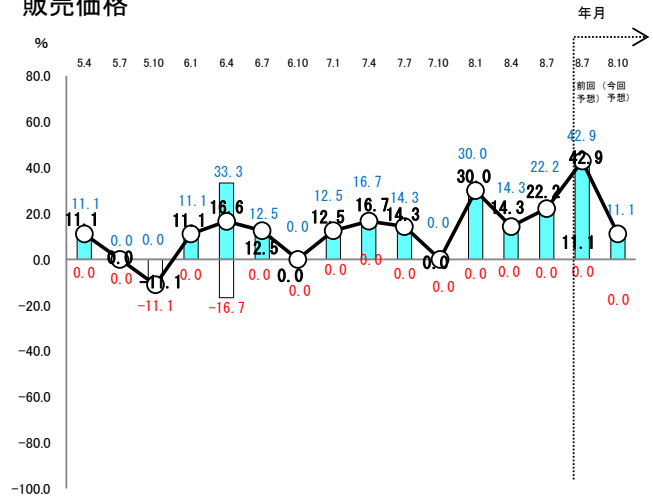
売上高



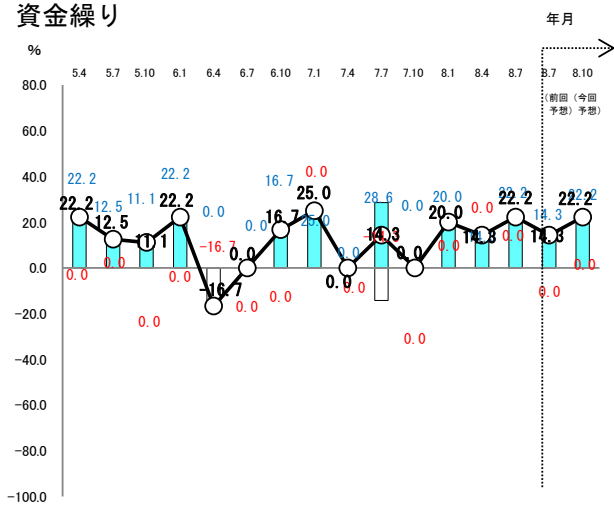
客数 (受案件数)



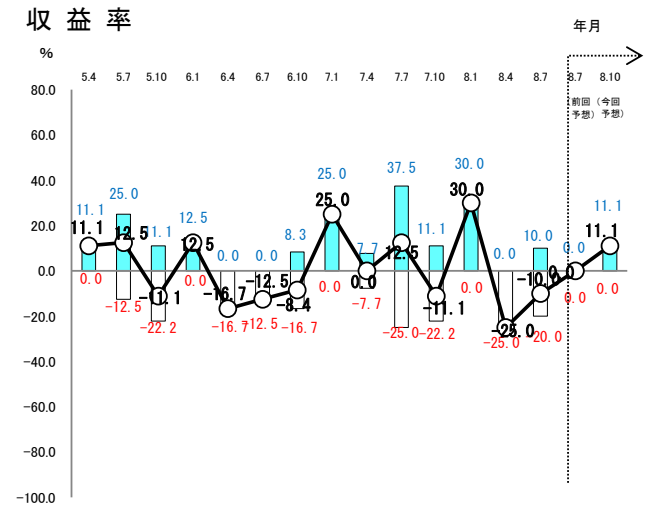
販売価格



資金繰り

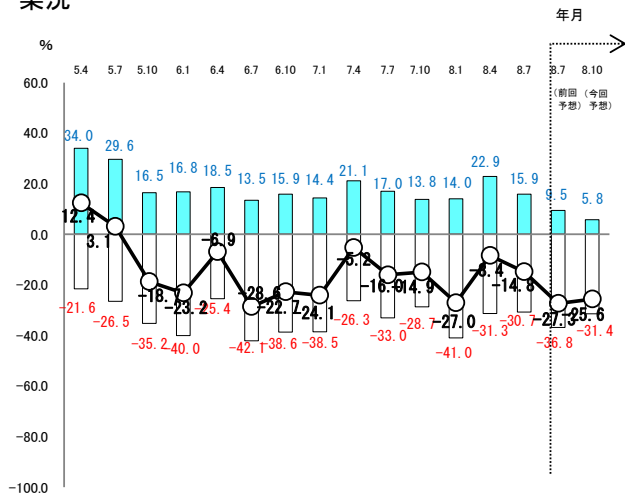


収益率

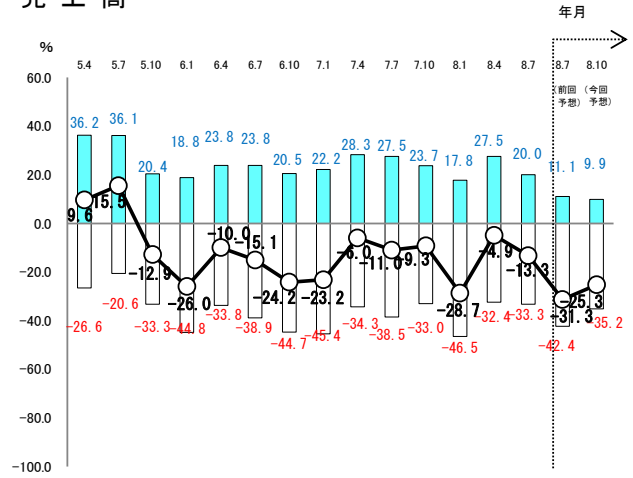


ウ 小売業

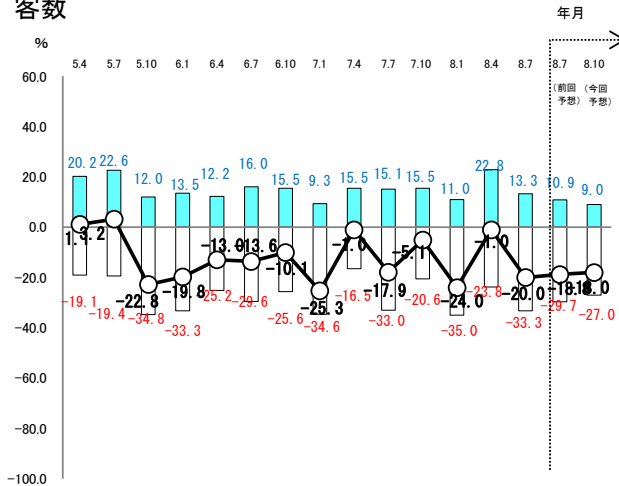
業況



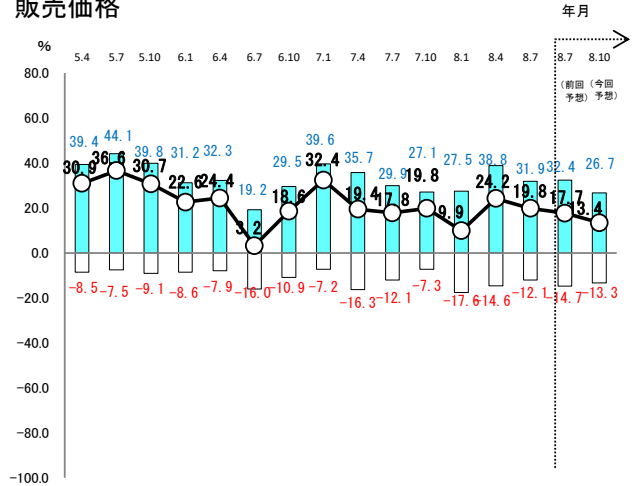
売上高



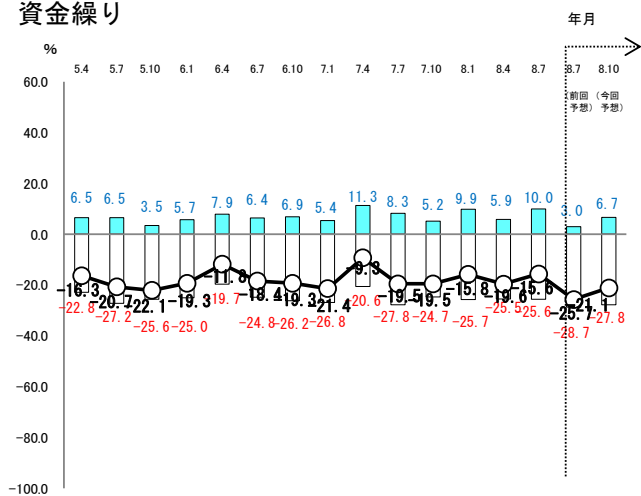
客数



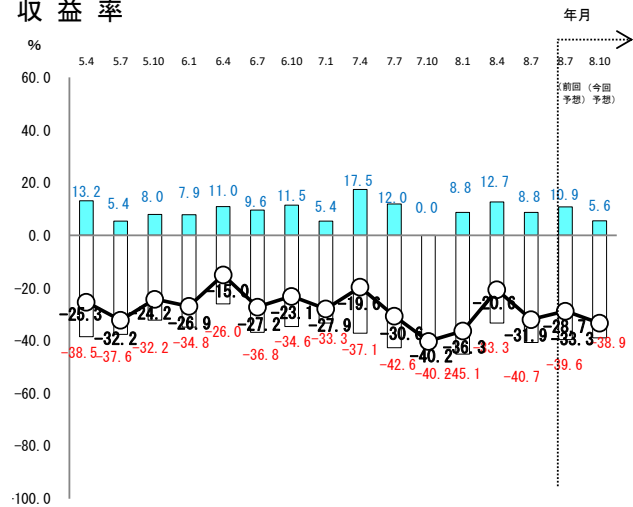
販売価格



資金繰り

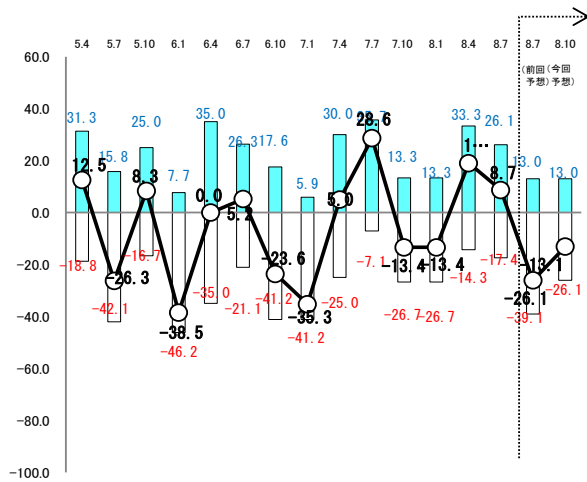


収益率

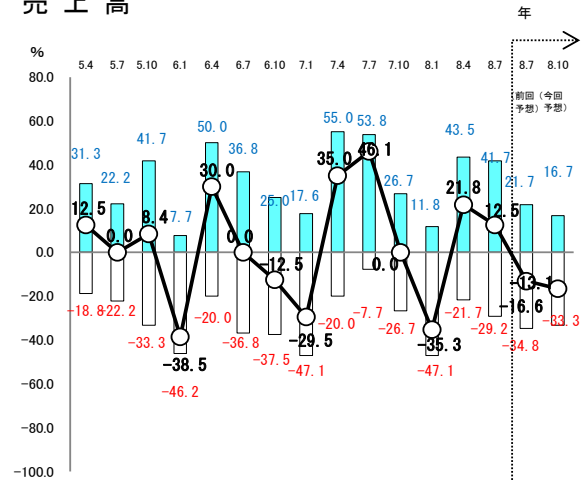


工 卸売業

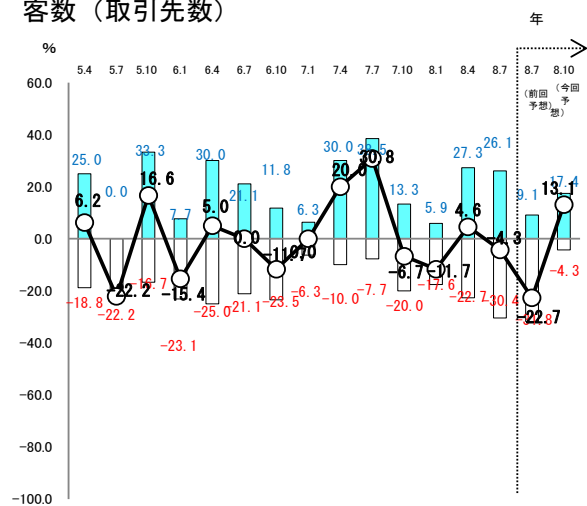
業況



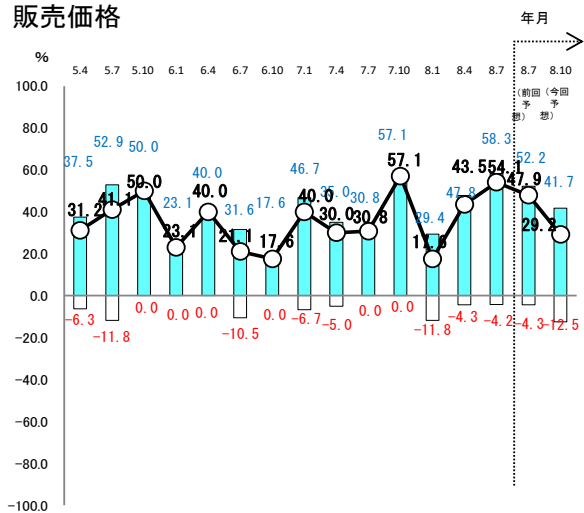
売上高



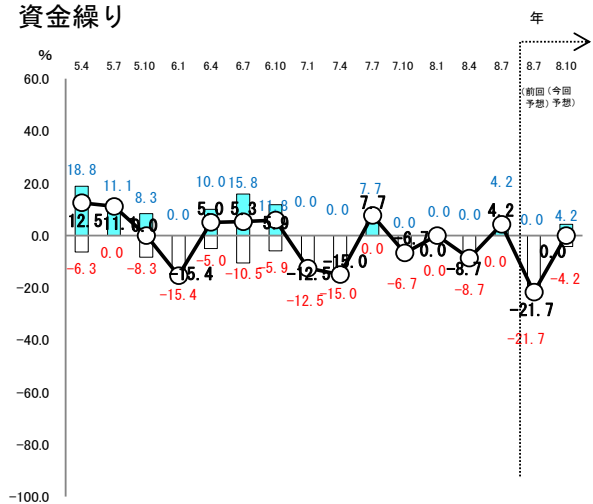
客数（取引先数）



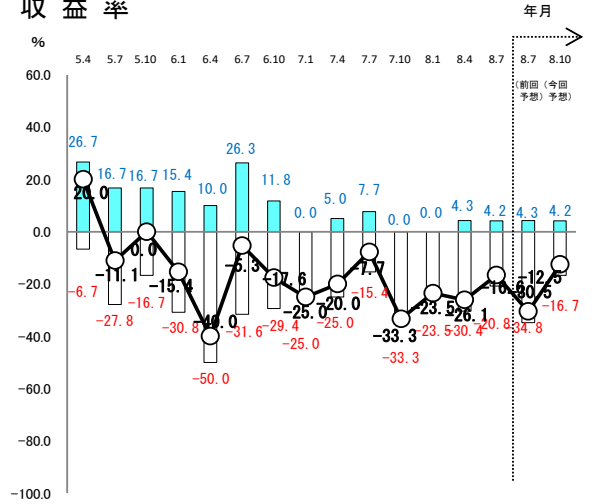
販売価格



資金繰り

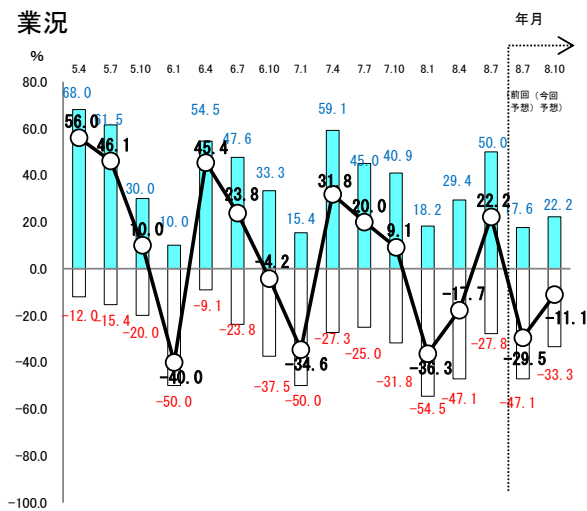


収益率

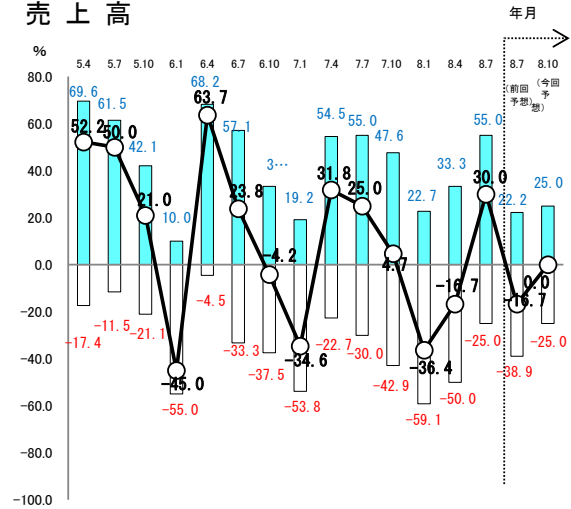


才 飲食業

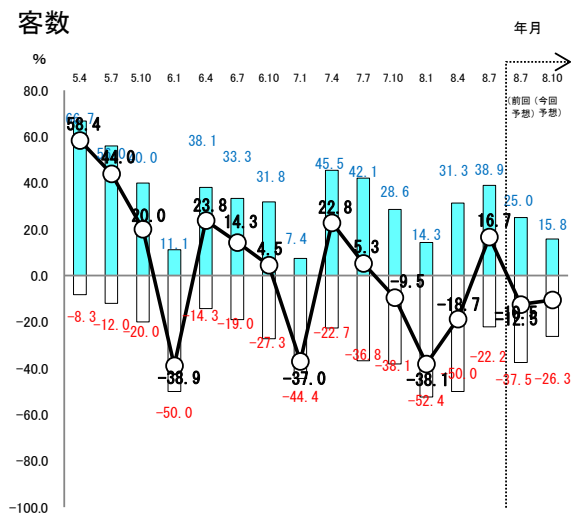
業況



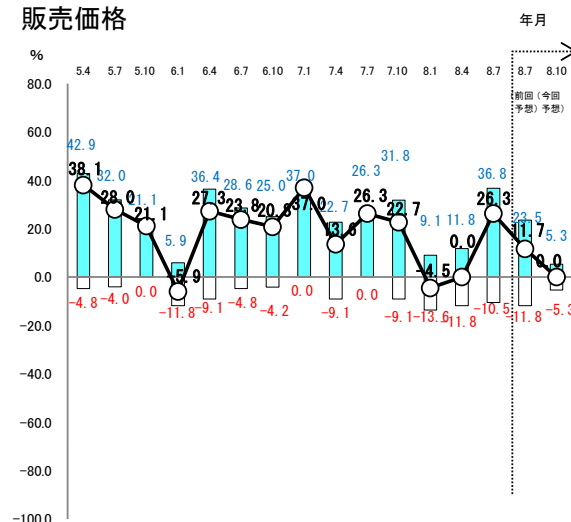
売上高



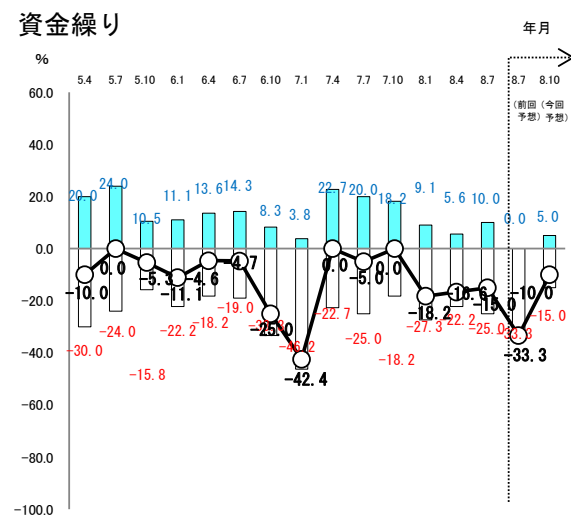
客数



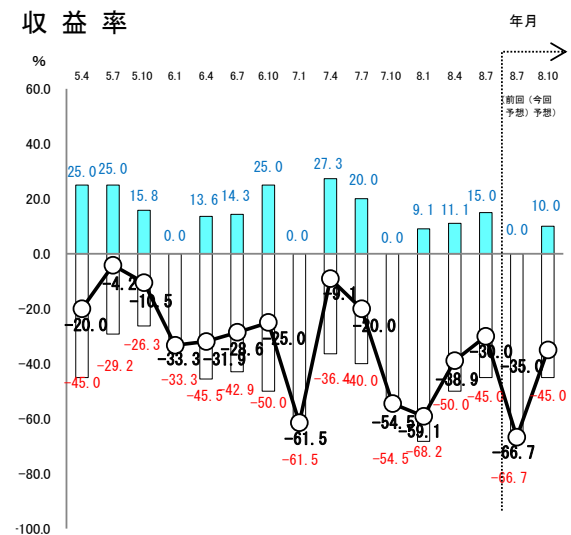
販売価格



資金繰り

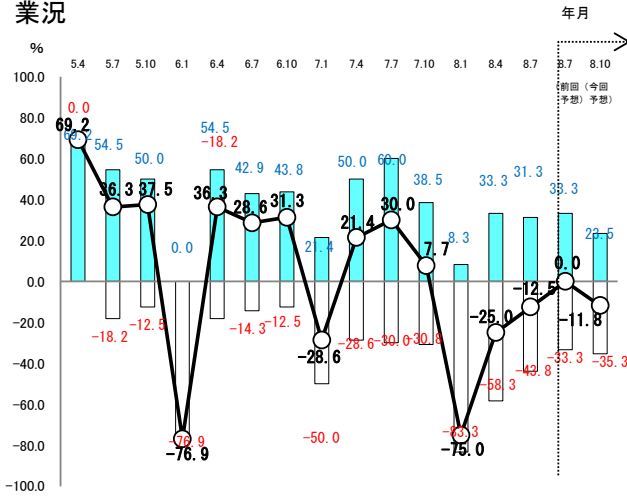


収益率

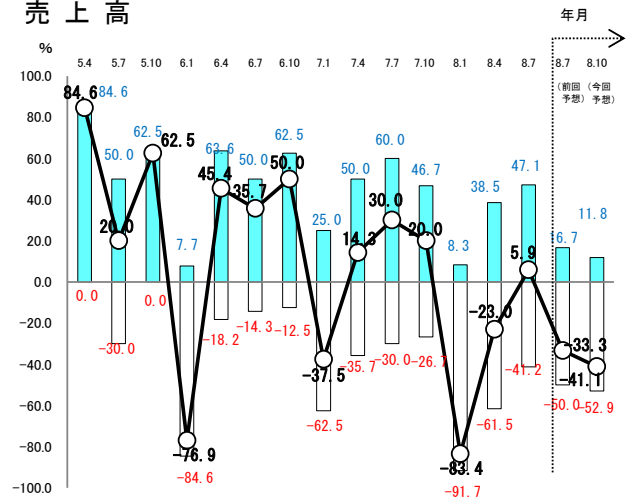


力 宿泊業

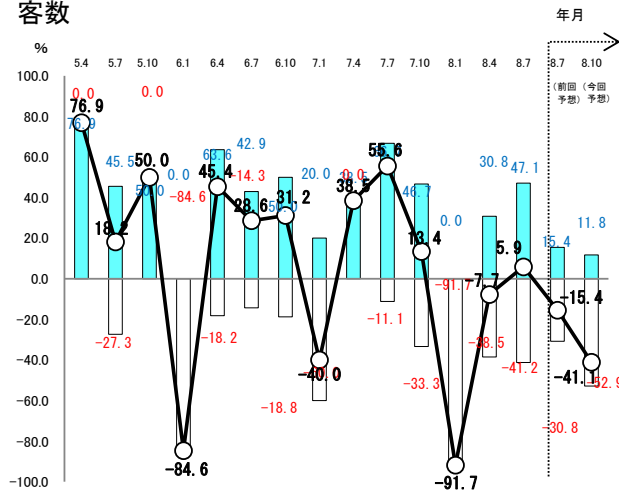
業況



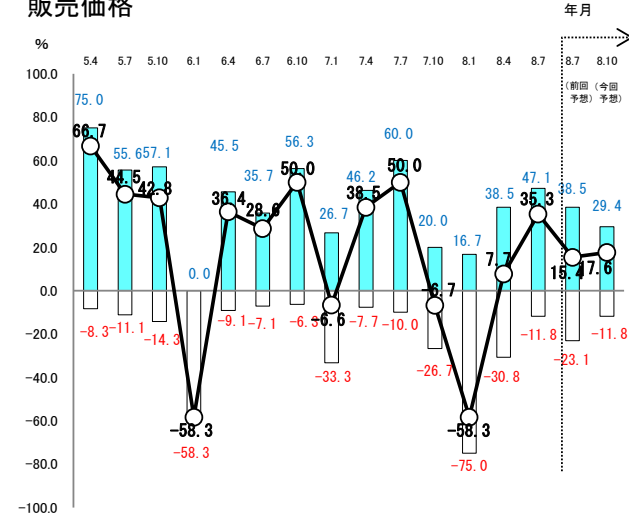
売上高



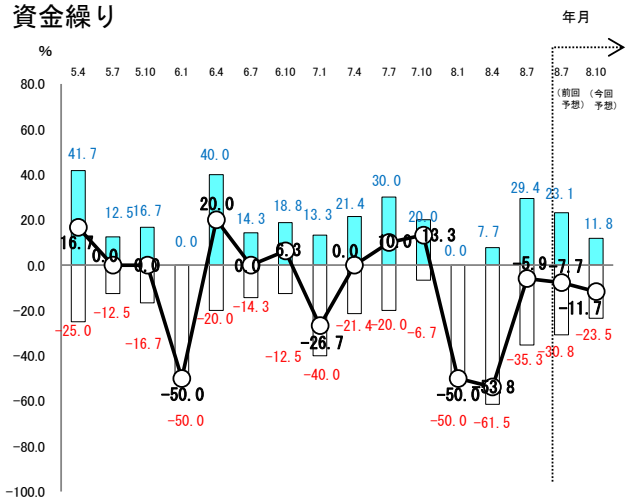
客数



販売価格



資金繰り



収益率

